

令和2年度第2回 足立区地域包括ケアシステム推進会議

(書面開催)

令和3年3月

次第

【案件1】 推進会議委員の任期の変更および改選について

- ・ 今期の任期を短縮(令和3年9月29日⇒5月末)し、新たな3年の任期とする。
併せて、委員の改選を行う。
- ・ 新任期は、令和3年6月1日から令和6年5月31日までとする。
(理由)委員の任期を会議開催時期(年3回程度)に合わせるため。
※参考「別紙1:現地域包括ケアシステム推進会議委員名簿」

【案件2】 令和3年度専門部会の委員構成について

- ・ 令和3年度専門部会の委員構成を令和3年度専門部会委員構成(案)」のとお
りとする。
(理由)地域包括支援センター運営協議部会を新設するため。

【報告1】 地域ケア会議の結果等について

- ・ 各地域包括支援センターで開催された地域ケア会議の実施内容及び抽出され
た地域課題について報告する。
別紙3「地域ケア会議活動報告集」
別紙4「地域ケア会議で提起された高齢者に関する地域課題と対策」

【報告2】 (仮称)江北健康づくりセンターの整備計画について

- ・ (仮称)江北健康づくりセンターの整備計画及びスケジュールの変更について
報告する。
別紙5「(仮称)江北健康づくりセンターの整備計画について」
別紙6「(仮称)江北健康づくりセンター基本計画」

※別紙2は回答用紙のため添付していません。

令和 2 年度 第 2 回地域包括ケアシステム推進会議

令和 3 年 2 月 1 0 日

件 名	令和 3 年度足立区地域包括ケアシステム推進会議の任期の変更及び改選について																																													
所 管 部 課	福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課																																													
内 容	<p>足立区地域包括ケアシステム推進会議の任期は、平成 2 7 年 7 月 1 4 日に条例が制定され、同条例施行規則が同年 7 月 2 4 日交付された。</p> <p>足立区地域包括ケアシステム推進会議は、条例の制定後の同年 9 月 3 0 日に第 1 回が開催され、委員への委嘱も同日付で行われた。</p> <p>現任期は、令和 3 年 9 月 2 9 日まで任期が残っているが、新たな部会が追加された事や会議スケジュール等を総合的に勘案して、令和 3 年度から新たな任期で委嘱することとしたい。</p> <p>ついては、現任期を終了すると共に委員の改選を行い、改めて 3 年間（令和 3 年から令和 6 年）の任期の委嘱をお願いしたい。</p> <p>1 足立区地域包括ケアシステム推進会議の任期の変更について 現委員の任期について、以下のとおり変更したい。 旧) 平成 3 0 年 9 月 3 0 日から令和 3 年 9 月 2 9 日まで〔現任期〕  新) 平成 3 0 年 9 月 2 9 日から令和 3 年 5 月 3 1 日まで〔変更後の任期〕</p> <p>【会議開催イメージ（年間）】</p> <table border="1" data-bbox="486 1153 1133 1243"> <tr> <td>6 月頃 1 回目</td> <td>→</td> <td>11 月頃 2 回目</td> <td>→</td> <td>2 月頃 3 回目</td> </tr> </table> <p>2 令和 3 年度地域包括ケアシステム推進会議委員の改選について 令和 3 年 6 月 1 日から令和 6 年 5 月 3 1 日までの委員の選任について、後日以下のとおり、各関係団体へ推薦依頼を行いたい。</p> <p>■地域包括ケアシステム推進会議委員の団体依頼数内訳</p> <table border="1" data-bbox="438 1489 1404 2094"> <thead> <tr> <th>団体名</th> <th>推薦人数</th> <th>団体名</th> <th>推薦人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学識経験者</td> <td>5 名</td> <td>全日本不動産協会東京都本部 城東第一支部</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区医師会</td> <td>3 名</td> <td>認知症疾患医療センター</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区歯科医師会</td> <td>1 名</td> <td>足立区ボランティア連合会</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区薬剤師会</td> <td>1 名</td> <td>足立区シルバー人材センター</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>東京都柔道整復師会足立支部</td> <td>1 名</td> <td>足立区友愛クラブ連合会</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区介護サービス事業者 連絡協議会</td> <td>4 名</td> <td>足立区民生・児童委員協議会</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム</td> <td>1 名</td> <td>足立区町会・自治会連合会</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>介護老人保健施設</td> <td>1 名</td> <td>足立区社会福祉協議会</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>東京都宅地建物取引業協会 足立区支部</td> <td>1 名</td> <td>足立区社会福祉協議会 基幹地域包括支援センター</td> <td>1 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※上表のほか、区職員 5 名が委員となる。</p>	6 月頃 1 回目	→	11 月頃 2 回目	→	2 月頃 3 回目	団体名	推薦人数	団体名	推薦人数	学識経験者	5 名	全日本不動産協会東京都本部 城東第一支部	1 名	足立区医師会	3 名	認知症疾患医療センター	1 名	足立区歯科医師会	1 名	足立区ボランティア連合会	1 名	足立区薬剤師会	1 名	足立区シルバー人材センター	1 名	東京都柔道整復師会足立支部	1 名	足立区友愛クラブ連合会	1 名	足立区介護サービス事業者 連絡協議会	4 名	足立区民生・児童委員協議会	1 名	特別養護老人ホーム	1 名	足立区町会・自治会連合会	1 名	介護老人保健施設	1 名	足立区社会福祉協議会	1 名	東京都宅地建物取引業協会 足立区支部	1 名	足立区社会福祉協議会 基幹地域包括支援センター	1 名
6 月頃 1 回目	→	11 月頃 2 回目	→	2 月頃 3 回目																																										
団体名	推薦人数	団体名	推薦人数																																											
学識経験者	5 名	全日本不動産協会東京都本部 城東第一支部	1 名																																											
足立区医師会	3 名	認知症疾患医療センター	1 名																																											
足立区歯科医師会	1 名	足立区ボランティア連合会	1 名																																											
足立区薬剤師会	1 名	足立区シルバー人材センター	1 名																																											
東京都柔道整復師会足立支部	1 名	足立区友愛クラブ連合会	1 名																																											
足立区介護サービス事業者 連絡協議会	4 名	足立区民生・児童委員協議会	1 名																																											
特別養護老人ホーム	1 名	足立区町会・自治会連合会	1 名																																											
介護老人保健施設	1 名	足立区社会福祉協議会	1 名																																											
東京都宅地建物取引業協会 足立区支部	1 名	足立区社会福祉協議会 基幹地域包括支援センター	1 名																																											

令和 2 年度 第 2 回地域包括ケアシステム推進会議

令和 3 年 2 月 1 0 日

件 名	令和 3 年度専門部会の委員構成について																																																																																																																														
所 管 部 課	福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課																																																																																																																														
内 容	<p>1 令和 3 年度専門部会の委員構成について</p> <p>令和 2 年度第 1 回足立区地域包括ケアシステム推進会議において、地域包括支援センター運営協議会を、本推進会議の専門部会として位置付けることをご承認を頂いた。結果として、令和 3 年度は、新たに運営協議部会として、専門部会を増やすこととなったので、以下のとおり、令和 3 年度の専門部会の委員構成について変更させて頂きたい。</p> <p>■令和 3 年度専門部会委員構成（案）</p> <table border="1" data-bbox="403 779 1406 1809"> <thead> <tr> <th>選出団体名</th> <th>医・介</th> <th>総合</th> <th>認知</th> <th>住まい</th> <th>運協</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学識経験者</td> <td>1 名</td> <td></td> <td>2 名</td> <td>2 名</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区医師会</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td></td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区歯科医師会</td> <td>1 名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区薬剤師会</td> <td>1 名</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>東京都柔道整復師会足立支部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区介護サービス事業者連絡協議会</td> <td>2 名</td> <td>1 名</td> <td></td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>特別養護老人ホーム</td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>介護老人保健施設</td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>東京都宅地建物取引業協会足立区支部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>全日本不動産協会東京都支部城東第一支部</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>認知症疾患医療センター</td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足立区ボランティア連合会</td> <td></td> <td>1 名</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足立区シルバー人材センター</td> <td></td> <td>1 名</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>足立区友愛クラブ連合会</td> <td></td> <td>1 名</td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区民生・児童委員協議会</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区町会・自治会連合会</td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> <td></td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区社会福祉協議会</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> </tr> <tr> <td>足立区社会福祉協議会基幹地域包括支援センター</td> <td>1 名</td> <td>1 名</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>区職員（住宅課長）</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>1 名</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>7 名</td> <td>6 名</td> <td>7 名</td> <td>7 名</td> <td>10 名</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 運営協議部会の部会委員は、他の 4 部会と兼ねられることとする。</p>	選出団体名	医・介	総合	認知	住まい	運協	学識経験者	1 名		2 名	2 名	1 名	足立区医師会	1 名	1 名	1 名		1 名	足立区歯科医師会	1 名				1 名	足立区薬剤師会	1 名				1 名	東京都柔道整復師会足立支部					1 名	足立区介護サービス事業者連絡協議会	2 名	1 名		1 名	1 名	特別養護老人ホーム			1 名			介護老人保健施設			1 名			東京都宅地建物取引業協会足立区支部				1 名		全日本不動産協会東京都支部城東第一支部				1 名		認知症疾患医療センター			1 名			足立区ボランティア連合会		1 名				足立区シルバー人材センター		1 名				足立区友愛クラブ連合会		1 名			1 名	足立区民生・児童委員協議会				1 名	1 名	足立区町会・自治会連合会			1 名		1 名	足立区社会福祉協議会					1 名	足立区社会福祉協議会基幹地域包括支援センター	1 名	1 名				区職員（住宅課長）				1 名		合計	7 名	6 名	7 名	7 名	10 名
選出団体名	医・介	総合	認知	住まい	運協																																																																																																																										
学識経験者	1 名		2 名	2 名	1 名																																																																																																																										
足立区医師会	1 名	1 名	1 名		1 名																																																																																																																										
足立区歯科医師会	1 名				1 名																																																																																																																										
足立区薬剤師会	1 名				1 名																																																																																																																										
東京都柔道整復師会足立支部					1 名																																																																																																																										
足立区介護サービス事業者連絡協議会	2 名	1 名		1 名	1 名																																																																																																																										
特別養護老人ホーム			1 名																																																																																																																												
介護老人保健施設			1 名																																																																																																																												
東京都宅地建物取引業協会足立区支部				1 名																																																																																																																											
全日本不動産協会東京都支部城東第一支部				1 名																																																																																																																											
認知症疾患医療センター			1 名																																																																																																																												
足立区ボランティア連合会		1 名																																																																																																																													
足立区シルバー人材センター		1 名																																																																																																																													
足立区友愛クラブ連合会		1 名			1 名																																																																																																																										
足立区民生・児童委員協議会				1 名	1 名																																																																																																																										
足立区町会・自治会連合会			1 名		1 名																																																																																																																										
足立区社会福祉協議会					1 名																																																																																																																										
足立区社会福祉協議会基幹地域包括支援センター	1 名	1 名																																																																																																																													
区職員（住宅課長）				1 名																																																																																																																											
合計	7 名	6 名	7 名	7 名	10 名																																																																																																																										

令和 2 年度 第 2 回地域包括ケアシステム推進会議

令和 3 年 2 月 1 0 日

件 名	報告 1 及び報告 2 の報告について
所 管 部 課	福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課
内 容	<p>〔報告 1〕</p> <p>1 地域ケア会議の結果等について</p> <p>【説明】</p> <p>各地域包括支援センターで開催された地域ケア会議（別紙 3）の実施内容と抽出された地域課題を別紙 4 のとおり分類した。また、委員の皆様のご意見をふまえて区関係所管等に情報提供・協議をしていく。</p> <p>別紙 3 「地域ケア会議活動報告集」</p> <p>別紙 4 「地域ケア会議で提起された高齢者に関する地域課題と対策」</p> <p>〔報告 2〕</p> <p>1 （仮称）江北健康づくりセンターの整備計画について</p> <p>【説明】</p> <p>総 4 階建ての計画から足立区公共施設等総合管理計画に基づき見直し、3 階建てに変更となった（別紙 5・6）。また、コロナ禍により財政状況が不透明なため、令和 3 年度の工事発注は見送られることとなった。引き続き、医療・介護連携センターの機能等について、関係機関と検討していく。</p> <p>別紙 5 「（仮称）江北健康づくりセンターの整備計画について」</p> <p>別紙 6 「（仮称）江北健康づくりセンター基本計画」</p>

地域包括支援センター 地域ケア会議活動報告集

令和2年度

目次

■基幹地域包括支援センター	
日頃のサロン活動の中での課題を共有しよう.....	1
■地域包括支援センター（あだち）	
拒否の強い認知症の方への対応について 男性独居高齢者の見守りについて	3
■地域包括支援センター（伊興）	
生活支援体制整備事業について.....	5
■地域包括支援センター（入谷）	
自分たちでできる感染症対策.....	7
■地域包括支援センター（扇）	
私たちの支え合い活動を次世代に繋ぐために.....	9
■地域包括支援センター（江北）	
コロナ禍以降の担い手の活動について.....	11
■地域包括支援センター（さの）	
高齢の親とひきこもり状態の子の世帯（8050問題）に対する有効な支援と関係機関との連携	13
■地域包括支援センター（鹿浜）	
地域での見守りについて	15
■地域包括支援センター（新田）	
買い物支援プロジェクト	17
■地域包括支援センター（関原）	
新型コロナウイルス禍における地域の取り組みについて	19
■地域包括支援センター（千住西）	
災害時に役立つ知識と行動	21
■地域包括支援センター（千住西）	
介護保険と障害サービスを併用している要介護5の方の支援について	23
■地域包括支援センター（千寿の郷）	
コロナ禍だからこそ、これからもつながり、支えあうために	25

■地域包括支援センター（千寿の郷・日の出合同）	
訪問時の感染対策をしよう	27
■地域包括支援センター（千住本町）	
やってみよう！公園の花壇づくり.....	29
■地域包括支援センター（中央本町）	
ひきこもり状態にある子の自立を願い、別居を決意した高齢夫婦支援	31
■地域包括支援センター（東和）	
地域資源MAPづくり 地域の資源の発掘と足立区ハザードマップの活用	33
■地域包括支援センター（中川）	
コロナ禍に地域でできることを考える.....	35
■地域包括支援センター（西綾瀬）	
孤立予防のためにできること.....	37
■地域包括支援センター（西新井）	
コロナ禍における地域の高齢者の現状・課題.....	39
■地域包括支援センター（西新井本町）	
地域の結びつきを拡く、より強くそしてより深く	41
■地域包括支援センター（はなはた）	
桑袋団地懇談会（関係者意見交換会）	43
■地域包括支援センター（一ツ家）	
第十九回一ツ家包括ケア検討会 住民主体の通いの場支援について	45
■地域包括支援センター（日の出）	
コロナ時代を地域で明るく元気に生きるには！	47
■地域包括支援センター（保木間）	
コロナ禍における地域課題について.....	49
■地域包括支援センター（本木関原）	
迷子になったり同じものを何度も買ったりする認知症高齢者の支援について	51
■地域包括支援センター（六月）	
地域の活力を維持するために今できること	53

日頃のサロン活動の中での課題を共有しよう

～新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえ、今後の活動に活かすために～

基幹地域包括支援センター

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 ■地域・ネットワーク構築 ■地域課題発見 ■地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止が求められる中、貴重な社会資源であるサロンの再開を待ち望んでいる方も多い。そこで、活動再開に向けての課題や対策方法について意見交換するとともに、活性化に向けて検討する機会とした。また、7月7日あんしん連絡会・地域ケア会議・二層協議体で検討した内容（「絆のあんしんネットワークのあゆみを振り返りどのような活動ができるかを考えよう」）も取り入れることとした。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■出席機関・団体名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅島うたの会 ・ご近所サロンふれんど ・サロンそよ風 ・しまねサロン ・サロン春の小川 ・ほっとサロン万葉 ・地域包括ケア推進課 ・基幹地域包括支援センター地域福祉課 <p>■サロン間の共通課題、新型コロナウイルス感染症禍での課題について検討</p> <p>① 運営者側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営スタッフの不足（会長の負担が大きい） ・ スタッフの高齢化（元気な高齢者に入ってほしい） <p>② 参加者側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の方が履物を間違えて帰宅してしまう。 ・ 会場の問題（場所・環境）で人数が減る。 ・ サロンの情報が地域に届いていない。 <p>③ 新型コロナウイルス感染症禍での課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今行っているサロンの共通内容（歌・体操など）では3密や飛沫の問題で再開できない。 ・ サロンの会場が高齢者施設のため、利用できない。



<p>取り組み結果・成果</p>	<p>■サロン間の共通課題、新型コロナウイルス感染症禍での課題についての対策・解決策</p> <p>① 運営者側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8月7日（金）絆のあんしん連絡会にサロン代表者が参加し、サロンの課題を共有することでリクルートし、運営者を増やす。 ※新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、上記内容を大幅に変更したため、課題共有等行えず。 <p>② 参加者側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今まで活動していた場所だけが会場ではないので、「公園で集まる」「電話で繋がる」など形態を変えてもいい。 ・ サロンの周知は町会等の掲示板を利用すればよい。 <p>③ 新型コロナウイルス感染症禍での課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌を歌っていたが、「曲を聴くのみにする」や「体操を外でする」「公園で集まる」など飛沫しない内容に変更したり、開催時間を短く変更したりする。 ・ サロン参加者に電話をした際に、自宅でマスクを作り施設に寄付している方もいたので、それを続けてもらう。 <p>■会議の成果</p> <p>今回初めて基幹エリアのサロン同士の意見交換会を行った。「もっと他のサロンの話を聞きたかった」という声もあり、サロン同士で情報共有を継続することが良い影響を与えている。また、サロンを再開する場合に、「会場である施設が使えなければ公園で集まってもよい」「歌を歌うのではなく、歌を聴くのみにしよう」と、今までのスタイルを継続するのではなく、今行えるスタイルに方向転換するヒントとなった。</p> <p>なお、当地域ケア会議を通じて、各サロンの関係構築が行われた結果、後日開催場所を変更して再開したサロンそよ風の活動を、ご近所サロンふれんど代表者が見学参加。これをきっかけにご近所サロンふれんども開催場所を変更してサロンを再開した。</p> <p>今後の展開として、情報交換会を継続して開催し、サロン同士の繋がりを強化することで、サロンを孤立させない取り組みを行う。</p>
<p>課題解決のために不足しているもの</p>	<p>■個別レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 運営者やスタッフ等の人員 ・ 元気高齢者の参加 <p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サロン同士の横断的な交流（情報共有による相乗効果が期待できる） <p>■ブロック圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サロン同士の情報共有 <p>■区レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動場所の確保。 ・ サロンへの参加促進につながる取り組み ・ 元気高齢者のサロン参加促進への取り組み <p>■広域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他地域におけるサロンの情報提供

拒否の強い認知症の方への対応について

男性独居高齢者の見守りについて

地域包括支援センター（あだち）

機能	<p>■個別課題解決 ■地域・ネットワーク構築 □地域課題発見 □地域づくり・資源開発 □政策形成</p>
理由・背景 テーマ選定の	<p>コロナ禍におけることも相まって、認知症状など疑われる男性の独居高齢者の医療含め支援拒否のケースが増えている。支援として関われる頃には悲惨な状態になっているため、日頃の見守りの眼とお互いに気に掛けられるネットワーク強化が必要と思われる。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■出席者 地域の医院、病院、民生児童委員、絆のあんしん協力員、居宅介護支援事業所、くらしとしごとの相談センター、福祉事務所、絆づくり担当課、地域包括ケア推進課、基幹地域包括支援センター、地域包括支援センターあだち</p> <p>■概要</p> <p>① 認知症に関する相談が増えており、高齢世帯・単身・地域の希薄化により発見までに時間がかかってしまっている。医療やサービスへ拒否の強い方への支援方法についてヒントとなる視点を探る。また、認知症に関する相談が増えていることから、地域の課題でもあることの共通認識を図るため事例をもとに個別ケース地域ケア小会議を開催。</p> <p>② 情報共有とお互いに気に掛けられるネットワーク強化を目標に小会議を開催。 各関係機関、関係者からは支援に繋がらない方は、いずれ孤立する方が多い。また、コロナ禍でどこも誰とも交わろうとしない方も多い。孤立したり、支援につながらないケースの共通点として生活困窮があげられる。生活困窮であっても食べる事は必ずするので、気軽に立ち寄れる場所や居場所を作っていく必要がある。そのような状況の中でも、地域は地域住民を見ており、ゆるやかな見守りになっている。しかし、その見守りの中での異変に気が付いても通報できる関係性ができていない事が課題で、結果的に支援が必要な時には大変な状況になっている事が多くなってしまっている等、多くの意見が出された。いかに早期発見し支援体制を整えられるか、また必要な時に必要な支援が迅速に入れられるかが課題となる。</p> <p>■検討内容</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の疲弊、サービスにつながった時の状況・経緯、日々のケア、ケアや誘い出しにつながる工夫など各者よりお話しいただき支援方法についての視点を共有した。 ・ 早期発見とはいっても認知症に関する正しい理解が乏しいことにより、相談ができない、情報が入らないなど発見には限界があり、地域の方々、事業所関係者からの情報提供が必須と思われるが個人情報の壁があるとの意見が出された。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 気軽に通報してもらえるよう、地域包括支援センターの活動内容をどのように周知するか。 ・ 孤立ゼロプロジェクト・実態把握調査、その他の情報を整理し一元化をどのようにしていくか。 ・ 生活圏域を見据えたネットワークの強化

■ネットワークの強化（①②共通）

- ・ 単身独居のリストを作成し地域を把握していく。
- ・ 支援者間の連携を図るため横のつながりをつくっていく。ケアマネジャー同士のネットワークづくり（地域ケアネットワーク）

- ・ 単身者の情報の集まる場所との連携（喫茶店、不動産屋、パチンコ店）あんしん協力機関登録
- ・ 緊急時の情報共有を図るための場づくり（絆のあんしん連絡会、地域ケアネットワーク、町会への顔出し）
- ・ 機関紙に包括職員の顔写真を掲載し、全町会の回覧板で周知

■個別レベル

- ・ 家族が疲弊してしまっている
- ・ 支援者による認知症の方への専門的なケア知識

■包括圏域レベル

- ・ 地域の希薄化、早期発見につながるネットワーク
- ・ 個人情報への壁があり連携をどこまで図れるか。

■区レベル

- ・ 絆のあんしん協力員と協力機関を増やす。
- ・ 地域包括支援センターの活動内容の周知



生活支援体制整備事業について

地域包括支援センター（伊興）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>地域住民で集まって情報交換する機会が減少しているため友愛クラブ（老人会）での見守り活動として『ゆうあい活動』を行っている。昨年度の東伊興地域で多世代交流イベントのような活動を通し、地域住民とのつながりを目的として多世代で話し合う場を定期的につくれるようにする必要がある。そのために、まずは協力員や協力機関に向けて生活支援体制整備事業について説明し、それを踏まえコロナ禍での地域課題を検討することになる。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■ゆうあい活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> 友愛クラブでの見守り活動を行っている。会員を増やし大きな組織にしていきたいが、新規の入会が少ない。区老連の名称を『友愛クラブ連合会』に変更し活動を継続する予定である。 <p>■多世代交流イベントについて</p> <ul style="list-style-type: none"> コロナ禍でも可能な限り、昨年度行った多世代交流イベント『行こう、伊興、みんなの広場』のような活動を積極的に行い、地域を盛り上げてほしい。むしろ、コロナ禍でも方法を考えながら行う必要がある。 <p>■交流の場について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域活動（サロン等）について、従来のやり方では再開できなくなっている。新型コロナウイルス感染予防対策のため、手探りでプログラムを考えている状況である。第1層と2層の生活支援コーディネーターの情報交換会があるのであれば、サロンの交流会もあるとよい。 移動手段がないためサロンに参加できない方も多いと聞くため、徒歩圏内で通える居場所を地域で考えるとよい。 <p>■あんしん協力員について</p> <ul style="list-style-type: none"> 協力機関のネットワーク強化目的として、新規協力員獲得のために地域を回って担い手を探していきたい。
取り組み結果・成果	<p>■地域に必要なと思われる資源・環境</p> <p>新型コロナウイルス感染予防対策に留意しながら、サロン間での交流を図る機会を持てるように調整する。</p> <p>■地域に必要な支援者・ネットワーク</p> <p>新型コロナウイルス流行により活動自体を自粛している団体が多く、開催している団体では新しい生活様式に沿って開催することに苦慮している現状がある。その中、『こんな時だからこそ工夫をしながらでもやっていく必要がある。』との発言もあり、工夫と同時進行で新しい取り組みを行っていく必要がある。</p>

	<p>昨年度開催した多世代交流イベントのネットワークを活かし、地域の情報交換や困りごとを話し合う場を定期的に設け、地域でのネットワーク拡大を図る。協力員である実行委員長・副委員長の協力を得ながら、絆のあんしんネットワーク連絡会にて周知・勧誘を行い参加者や参加機関を増やす。</p> <p>■成果</p> <p>地域包括ケアシステム構築のためには地域住民で集まり活発な意見交換を行う場が必要で、そのためにはサロンや友愛クラブ、サークルなど既存の活動団体間での交流や話し合いを通じてネットワークをさらに広げたいとの意見が多く聞かれた。今後は、イベント会議（第2層協議体）にて、情報交換を重ねて、将来的には多世代団体として地域課題を抽出できるようになる事を目指した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl;">課題解決のために不足しているもの</p>	<p>■個別レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 移動手段が必要とならない範囲（各地域住民が徒歩圏内で参加可能）でのサロンの開発 <p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス流行によりサロン活動が自粛となっている為、サロン間での交流会開催は難しい状況であるが、多世代交流の話し合いの場へ代表者が参加する形であれば意見交換や情報交換が可能と思われる。新型コロナウイルス感染予防対策により地域で集まれる場所が限られる為、伊興地域学習センターレクホールや学習室を活用予定である。 <p>生活支援体制整備事業における第2層生活支援コーディネーター業務として、多世代交流イベントを通し、実行委員と地域のサロン代表者と定期的に交流会を行い、コロナ禍でもサロン再開方法の確認や内容を検討することで、来年度の2層業務につなげる事が期待できる。</p>

自分たちでできる感染症対策

地域包括支援センター（入谷）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>この度の新型コロナウイルスの影響により、住民の皆様も自粛生活や衛生用品の不足など日常生活において様々な変化を余儀なくされた。しかし、そのような状況においても各サロン等では公園などに集まり、自主的に感染症対策をしながら活動されている。</p> <p>感染リスクを無くすために医学的視点のポイントを皆で共有し個人・地域で何ができるかを考えていきたい。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>出席者 絆協力員 2 名、民生委員 2 名、協力機関 3 事業所 4 名、舎人地域学習センター 1 名 地域包括ケア推進課 1 名 絆つくり担当課 1 名 基幹包括 2 名 北足立生協診療所 2 名、地域包括支援センター入谷 3 名 計（ 18 ） 名</p> <p>講義「自分たちでできる感染症対策」北足立生協診療所：日向佑樹医師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナの特徴は発症前の無症状の時から感染する ・ 無自覚無症状でもよく観察すると何らかの症状が出るので、違和感が出たら無理をせず休む。 ・ 後遺症がある（味覚障害が残る等）。 ・ 高齢者は重症化しやすい（インフルエンザより高齢者の死亡率は高い、80 歳以上 1/4 が重症化）。 ・ アルコール消毒はアルコール濃度 60～80%が望ましく手指全体に塗り込む。 ・ PCR検査の信憑性は高く陽性となればコロナウイルスで間違いない。 ・ マスクは屋外、一人の時など不必要な際は外し熱中症予防をする。 ・ 2m はマスク無しで良い距離※マスク無し 2m 以内で 10 分の会話は 1 回咳を浴びたと同じ。 <p>サロン代表、事業所代表からの感染症対策に関する報告</p> <p>グループワーク&質疑応答</p> <p>まとめ</p> <p>総評 足立区役所地域包括ケア推進課</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

<p>取 り 組 み 結 果 ・ 成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍の中で活動されているサロンや地域の事業所の代表の方々に感染症対策について話して頂いた。 ・ サロンでの集まりは、ほぼ中止となっておりお手紙や電話で交流を図ったが<u>地域内で孤独死が数件あった。</u> ・ 地域学習センターでは2～5月が貸出中止し6月末より再開し次亜塩素酸での消毒は徹底しているが集まりは少ない。30～40代に向けた<u>オンラインの取り組み(リトミック教室等)</u>が始まっている。 <p>事前に包括支援センターで募ったケアマネ、地域住民へのアンケートも<u>オンライン活用</u>に関する意見があったが、地域住民でインターネット環境があるかについての質問で「ある」と答えたのは<u>3割程</u>であった。</p> <p>地域レベルでのオンライン導入の為にはインターネット環境整備の支援、理解を促す必要性があるが、それを実行する為には<u>御家族の協力や企業、行政レベルでの連携が必要</u>であり、環境が整うまでには時間が掛かると思われるので現時点でできる、<u>2層業務(地域の声掛け、手紙、電話等でのアナログな絆づくり)</u>が今だからこそ重要である事を認識した。</p> <p>集まりごとを行わないのは簡単だがそこに潜むリスク(孤立化、ADL低下など)をふまえて感染を恐れてただ自粛するだけではなく、ウイルスを正しく理解し正しく怖がり、正しく社会活動を継続していく事が重要である。</p>
<p>課 題 解 決 の た め に 不 足 し て い る も の</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■個別レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な住民同士の声掛け、パトロール等の強化 ・ 定期的な声掛け、パトロール等の強化をしていく上での地域の担い手作り ■包括圏域レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 1層2層、絆づくり担当とも連携を図り、現在だからできる取り組みを行っていく。 ・ 毎月20日舎人団地自治会防犯パトロールに参加 ・ 毎月第3火曜日舎人団地茶話会に参加 ・ 毎月25日古千谷長寿会集会に参加※現在は休止中 ・ 包括支援センターから地域住民への情報提供(手紙、自宅でできる取組の提案、DVD配布など) ■ブロック圏域レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域レベルでのオンライン導入の為のインターネット環境整備の支援 ■広域レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン環境整備を進めていく(スマホ、オンライン講師など) ・ オンライン環境整備を進めていく上で地域の企業の巻き込み ・ オンライン化が進む上で新たな問題への対策 例)オンライン詐欺や依存など

私たちの支え合い活動を次世代に繋ぐために

地域包括支援センター（扇）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>地域の支え手の高齢化が進む中で、次世代へ繋ぐための担い手が不足している。西部ブロックとしても共通の課題が上がったため、共通テーマで検討することになった。</p> <p>「地域の高齢者を支えていく若い世代の意識調査」からも、若い世代に地域包括ケアシステムや絆のあんしんネットワークがあまり知られていない結果だった。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■出席者 地域包括ケア推進課1名、絆づくり担当課2名、高齢調整係1名、ふれあいポリス1名、基幹地域包括支援センター1名、民生委員1名、あんしん協力機関3名、あんしん協力員6名、町会自治会1名、ふれあいサロン代表2名、友愛クラブ1名、ケアマネジャー6名、包括職員5名</p> <p>■会議の概要 地域の支え手の方々と現状を共有し、課題を整理していくことで、連携して次世代に繋ぐための施策を検討・考案していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自ら適任者を見つけていく必要があるため、地域の見守り活動をもっと知ってもらいたい。包括にあんしんネットワークを広げてもらいたい。 ・ 友愛クラブは高齢化が進み自助努力では会員を増やせない。 ・ 友愛クラブの準会員制度を利用して若い世代を増やしている。高齢者の中には若い世代を受容できない人がいて課題になっている。 ・ あんしん協力員として子供世代に引き継ぎを考えている。PTA等に広められないか。 ・ 高齢者ばかりの地域であきらめていたが、若い世代にも目を向けて交流を始めてみたら喜んでくれた。 ・ 楽しくしっかりと取り組んでいけば見てくれている若者が繋いでくれると思う。 ・ サロンを始めるきっかけは先輩に「あなたならできる」と声をかけてもらったから。若い世代を誘う、その気にさせるということが大事。 ・ サロン活動の後継者問題が出ている。楽しい活動なら手伝ってくれる人が増える。 ・ 友愛クラブは若い世代が加入していないので会員数が減っている。準会員なら40歳から参加ができる。老人クラブの名称を「友愛クラブ」に変更して工夫している。 ・ 絆のあんしんネットワークを知っている人が少ないことが分かり課へ持ち帰り検討したい。 ・ ケアマネジャーとして利用者や家族と接することが多い。支援の中で地域活動を周知できると思う。



■成果

- ・ 各支え手の立場の現状を共有し、共通点を見出すことによってネットワークのつながりが強化された。
- ・ 「高齢者の意識改革」「PTAの周知」「友愛クラブの準会員制度」等次世代へ繋ぐための手がかりや着想を得られた。

■包括圏域レベル

- ・ 地域の介護関係者を通じて支え合い活動を広げていく。

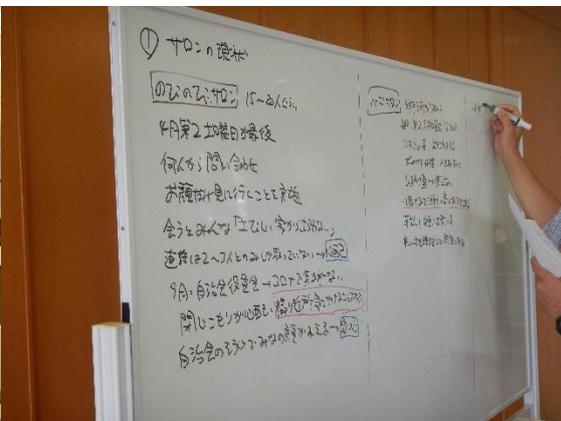
■区レベル

- ・ 絆のあんしんネットワークを次世代に周知する仕組みづくり
- ・ PTAとの連携。絆のあんしんネットワークや友愛クラブを周知していく。
- ・ 友愛クラブの準会員制度の周知
- ・ ふれあいサロンを長く続けられるスタートからの仕組みづくり

コロナ禍以降の担い手の活動について

地域包括支援センター（江北）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input checked="" type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>新型コロナウイルス感染流行以降、サロンは自粛を求められている事もあり、地域づくりにおいての担い手の方々も活動に制限・不安が生じていると思われる。</p> <p>それぞれのふれあいサロン代表より、現状や思いをうかがいながら、「この情勢でもできる活動」「こんな情勢だからこそ必要な活動」について話し合い、実践を目指す事とした。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■出席者 ふれあいサロン代表者 6 名（5 団体） 絆づくり担当課 2 名 基幹包括 1 名 包括職員 3 名</p> <p>■内容 ふれあいサロン代表の方より、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① サロンの現状での活動状況 ② サロン参加者からの声、運営者としての考え・希望 ③ サロン活動においての今後に向けての課題 <p>以上 3 点について話していただいた。</p> <p>一部対策を講じながら段階的に活動を再開させているサロンもあったが、多くは再開できていない現状であった。代表の方は再開を望む多くの声を受けているが、従来の活動内容が「おしゃべり・お茶」「カラオケ」など現状実施が難しいものであり、参加者はそこに期待して再開を望まれている事も多い事から、「再開時の内容に工夫が求められる課題」を共有した。また、参加人数の制限について、参加者を分け二部制で実施する考えのサロンがあり、その意見に共感・参考にされる団体の方もいた。</p> <p>一方、休止中の一部のサロンでは、代表者から出席者に安否確認の電話連絡を実施されている所もあり、参加者に安心感を感じていただく事ができた。また入院時に報告の連絡をくれるなど、結果として地域の中の見守り活動につながっているケースも多くあった。</p>



	<p>■基幹包括支援センター 木村氏より</p> <p>上記のサロン内での安否確認の電話連絡の件を受け、ささえあいコール事業の案内や活動事例の報告をいただき、安否確認の有用性が共有された。あわせて、他の地域のサロン活動について報告いただいた。</p>
<p>取 り 組 み 結 果 ・ 成 果</p>	<p>■地域包括支援センター江北より</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 絆のあんしん協力員・協力機関の登録 ② 包括江北からサロン代表者への定期連絡 ③ 「リーダー会」の開催 <p>以上、三点の提案をさせていただいた。</p> <p>①について、絆づくり担当課竹田氏よりふれあいサロンの孤立予防の役割や意義、他の地域でふれあいサロンとしてあんしん協力機関に登録され見守り活動に寄与いただいている事など報告いただき、後に複数のあんしん協力員・機関のご登録をいただいた。</p> <p>②については、2層機能として、現状や困りごとをうかがうために月一回程度のペースで定期連絡させていただく事に了承いただいた。</p> <p>③について、昨年度下半期に開催した地域ケア会議で、ふれあいサロン代表で定期的に集まり情報交換を行う「リーダー会」の発足を予定していたが、コロナの影響で開催できずにいた。改めて悩み事やアイデアの共有、状況に応じて包括の支援や情報提供を行う場としてリーダー会の開催を提案、3か月に1度のペースで開催する事に合意形成を得た。</p> <p>■まとめ（成果）</p> <p>アンケートを通じて、「他のサロンの話を聞いて、人数を制限させたり、時間を短くし顔を合わせる活動だけでも良いのかなと思った。外でもできる活動など、すすめていきたい気持ちになりました」との声が聴かれた。前向きな気持ちとともに、地域づくりの担い手としての意義・必要性を感じていただく機会になったように思う。また、具体的な活動内容の検討に関して、リーダー会の発足により今後の足がかりができた。</p>
<p>課 題 解 決 の た め に 不 足 し て い る も の</p>	<p>コロナ禍のなかでサロン開催する事の不安の声が多く聞かれたため、開催・運営におけるフォローが必要と考えられる。</p> <p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サロン開催における感染予防に関して、講座やサロン運営者同士での知識・対策方法の共有の場の開催 <p>■区レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 消毒アルコールやマスクなど、感染予防に関するグッズのサロンへ配布

高齢の親とひきこもり状態の子の世帯（8050問題）に対する有効な 支援と関係機関との連携

地域包括支援センター（さの）

機能	<p>■個別課題解決 ■地域・ネットワーク構築 ■地域課題発見 □地域づくり・資源開発 □政策形成</p>
テーマ選定の理由・背景	<p>高齢者の支援を通して、地域において8050問題を抱える世帯が非常に多いことが見えてきた。親の虚弱化によって、高齢者虐待や支援困難に繋がる事例も多く、地域課題として捉えている。今回は、個別ケースの支援内容を検討するとともに、多機関との連携や支援体制の構築について検討をするため、本ケースを選定する。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■会議の目的 (個別課題解決)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 高齢の母親と長男の2人世帯。長男が長期にわたり就労につながっていないため、経済的困窮に陥る可能性がある。多機関の視点から多面的に支援内容を検討する。 ② 共依存関係にある親子への支援のポイントについて学び、共有する。 <p>(連携・ネットワーク構築、地域課題発見)</p> <p>当センターの圏域には、8050問題を抱える世帯が非常に多い。多機関・地域のネットワークを構築し、今後の支援体制を検討する。</p> <p>■参加者 民生委員、KHJ東京中央ひきこもり家族会萌の会、足立ひきこもり家族会、くらしとしごとの相談センター生活相談係・就労支援担当係、障がい福祉課東部援護係、地域包括ケア推進課（医療・介護連携推進担当）、基幹地域包括支援センター包括支援課、地域包括支援センターさの（計13名）※東部保健センターは業務の都合で欠席となる。</p> <p>■参加者との意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親が過去に借金を肩代わりしていたので、本来はその前から相談できると良かった。 ・ どういうことで困っているのか、親子で話し合うことが必要。母親に家族会へ参加をしてもらいたい。 ・ 長男がひきこもった原因は、仕事面での躓きだったのか？ひきこもりの期間が長ければ長いほど、精神疾患の症状が出てきている可能性がある。 ・ 共依存関係を断つために、分離が必要。長男が別居をして生活保護の相談ができないか。 ・ 長男は、過去にくらしとしごと相談をしているが支援が途絶えている。途絶えてしまった箇所に長男の問題があるのではないか。 ・ 親子は「困っている」のだろうか。親子と「困った感の共有」から始める必要がある。 ・ 地域と交流のない世帯である。地域の中で、このような世帯に早く気付く必要がある。

	<p>■検討内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発達障害が疑われる場合の支援については、幼少期に相談のあった際にはIQで判断。発達障害なのか知的障害なのかにより、手帳申請の種類も違ってくる。発達障害や精神保健福祉手帳取得の相談は、保健センターが担当となる。 ・ 親の居場所(情報交換の場)の提供ができるとうい。 ・ 親子の分離の時期と方法については、引き続き検討が必要。 ・ 長男を自立させるための支援方法として、就労支援、分離後の生保相談、息子の居場所支援‘セーフティーネットあだち’との連携が考えられる。
<p>取り組み結果・成果</p>	<p>■解決策</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 親子でしっかり話し合う：母親の家族会への参加。家族会で一緒に勉強をする。 ② 長男の精神疾患の確認：保健センターに関わってもらう。 ③ 世帯を分離する：長男の自立に向けて、住居や就労の支援体制をつくる。 ④ 地域の役割：早くに気がつく。ゴミ出し時からの声かけから行う。 ⑤ 複合的な課題を抱えた世帯への支援：多機関協働による支援の重要性。 <p>■上記解決策の役割分担</p> <ol style="list-style-type: none"> ①について：包括から親へ提案 ②について：包括から保健センターへ相談 ③について：包括、くらしとしごとの相談センターで検討 ④について：民生委員から町会へ働きかける。 ⑤について：包括が中心となって、民生委員、足立ひきこもり家族会、くらしとしごとの相談センター生活相談係・就労支援担当係、今回、会議には参加をしていないが、東部福祉事務所(生保)、東部保健センターと連携して支援をしていく。 <p>※「地域共生社会の実現に向けた市町村における包括的な支援体制の整備」の検討が進められているが、高齢・障害・子ども・生活困窮等の各分野、地域が協働して支援ができる体制を構築する必要があることを共有した。</p>
<p>課題解決のために不足しているもの</p>	<p>■個別レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親世代に「ひきこもり」に対する理解、家族会の活用 ・ 共依存関係にあるため、介護保険サービスを利用してお互いが離れる時間をつくる。 <p>■ブロック圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ひきこもり家族会が区内で1カ所のため、離れた地域から高齢の親が参加することが難しい。例えば、家族会の出張や訪問などがあれば相談が繋がりやすくなると思われる。 <p>■区レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重層的支援体制整備事業の実施に向けた検討

地域での見守りについて

～地域の担い手つくり～

地域包括支援センター（鹿浜）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>コロナ禍の影響にて見守りが難しくなっている。現状あるサロンの取り組み事例報告。今後更に見守り強化の為に施策を検討する必要がある。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■出席者 民生委員1名 あんしん協力員9名 ふれあいポリス1名 基幹地域包括支援センター1名 絆づくり担当課1名 包括職員3名</p> <p>■会議開催の工夫 参加者を申し込み制にした。テーブル1名 脇にアクリル板を配置し飛沫感染防止を実施した。常に窓は開けたまま換気を続け密にならないようにした。</p> <p>■検討内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 基幹地域包括支援センター地域福祉課木村氏より「地域の支え合い活動」について講義、サロン参加した方の介護の重度化が軽減した等の話があった。 2 支え合いコールを実施しているサロン代表者より事例の発表 通常は体操クラブを実施しているが、コロナ禍の影響にて活動はできず月に1回電話にて安否確認を実施してきた。その中で何度も連絡するが繋がらず心配になり包括に連絡する。包括の安否確認により自宅で他界していることが判明した。大変残念な結果になってしまったが、もし、この連絡をしていなければ早く発見できなかったことが考えられる。多くのサロンにおいても同じような活動はされているが、サロンなどに参加されていない方の支援はどうなっているか？コロナ禍で活動も制限されている中での活動を検討する必要がある。 3 検討において以下の様な意見があった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じようにサロンを運営しているが、活動場所が特養にて場所の確保が難しい。 ・ 運動をしたいが機会がなくなんともし難い。 ・ 歩く機会が減って歩行が大変になった。 ・ 去年の台風の話になるが、避難を求める方の情報を教えて欲しい。今回のコロナにおいても情報があれば何らかの支援を考えることができるかもしれないので、個人情報の提供を要望したい。 ・ こども食堂を実施しているが2月より開催できていない。多世代交流の機会にもなっている為、今後できるようであれば早めに再開したい。



<p>取り組み結果・成果</p>	<p>■地域に必要なと思われる資源・環境</p> <p>コロナ禍においても頑張っているサロンは存在するが、数が足りていない現状がある。サロンを増やしていき、見守り支援を強化する必要がある。現状活動は難しいが、支え合いコール等にて安否確認も可能である。今後、更に活動して頂けるサロンを構築していく必要がある。</p> <p>■地域に必要な支援者・ネットワーク</p> <p>サロンについて場所の増加も必要であるが、その活動を支える担い手が必要である。現在担い手が少ない状況と高齢化している現状がある。若い世代にも声を掛ける等、担い手を増やす必要がある。</p> <p>■解決に向けてのスケジュール</p> <p>今後の地域ケア会議など利用しながら、広くサロン活動を周知していく。</p> <p>コロナ感染症終息後</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 必要に応じて地域包括支援センターがサロンの広報支援を実施していく。 ② 定期的に現状あるサロンの意見交換会を実施していく。また、昨年度実施したサロン交流会を開催していく。 ③ こども食堂など活用し広く次世代の方にサロンを知って頂き、担い手になって頂く方を探していく。
<p>課題解決のために不足しているもの</p>	<p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 包括の広報活動を通じ、サロン等の紹介を実施 ・ 包括内サロン交流会を通じ、他に発信 <p>■ブロック圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年の実施が難しかった。「西部ブロックフェス」を実施し、多世代に見守り支援をお願い。 ・ 西部ブロック内のサロン交流会を実施 <p>■区レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域のちから推進部などを通じた多世代交流の機会 ・ サロン等を全区的に紹介

買い物支援プロジェクト

～いつまでも自分で買い物ができる町へ～

地域包括支援センター（新田）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 ■地域・ネットワーク構築 ■地域課題発見 ■地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>宮城親交会の下川会長より「日常生活の買い物に不便を感じている高齢者がいる」という地域ニーズを確認。そのニーズに対し、買い物支援はできないものだろうかという意見から、包括が法人及び宮城親交会と協議し、買い物支援プロジェクトを立ち上げた。本格実施に向け、参加者と課題の確認や今後の展開について共有したい。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■実施日：令和2年12月18日（金）14：00～15：20 ■場所：江南住区センター 大広間 ■参加者：15名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮城親交会（8）・地域包括ケア推進課（1）・基幹地域包括支援センター（1） ・社会福祉協議会ヘルパーステーション（1）・総合ボランティアセンター（1） ・社会福祉法人愛寿会 特別養護老人ホーム紫磨園（1） ・紫磨園在宅サービスセンター（1）・あいじゅケアプランセンター（1） <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【検討内容】</p> <p>■プロジェクトの経緯・内容説明（地域包括支援センター新田：山田）</p> <p>■意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 開催頻度、時間について <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続性を持たせた実施を検討。 ・ 紫磨園在宅サービスセンターは週1～2回の送迎は可能。 ・ 週1回程度の開催でもよいのではないか。 ・ デイサービスの送迎時間に重ならないように実施（3：00には現地発） ○ 送迎車の感染予防について <ul style="list-style-type: none"> ・ 検温、マスク、手指消毒等感染防止対策を実施。 ○ コモディイダ以外の買い物支援について <ul style="list-style-type: none"> ・ 今回は日常生活の買い物支援のため、近所のスーパーに焦点をあてて対応。 ・ 離れた大型スーパー等は今後検討するのはどうか。 ○ 財布や金銭の不足について <ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎時に財布を持参したか、金銭が十分にあるかを声かけした方がよい。

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 協力者・ボランティアについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状宮城、小台地区の民生委員に相談し、プレ開催時に参加予定。 ・ 送迎やスーパーでの付き添いなど支え手の人材募集が課題になるか。 ○ 地域包括ケア推進課：浦川係長 <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物は自分の目で見ることで体が脳の活性化にも繋がる。 ・ 今回のプロジェクトで他者との繋がりも広がっていくのではないか。 ○ 社会福祉協議会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 友愛クラブの理念通り、元気な高齢者が元気のない高齢者を助けるという形が今回のプロジェクトにも表れている。 ・ 毎週開催する買い物支援は必要性が高いのではないか。 ○ 宮城親交会：下川会長 <ul style="list-style-type: none"> ・ まずは新しい事業をやってみてはどうか。 ・ 友愛クラブとしても、プレ開催含め成功させたい。 ・ プレ開催美：12/28PM1：00～3：00 ・ 参加者は宮城親交会で積極的に探していきたい。 ○ 地域包括支援センター新田 <ul style="list-style-type: none"> ・ プレ開催後に今後の方向性を再検討したい。 ・ コロナ禍で明るい話題がない中で、今回のプロジェクトが宮城・小台の地域を盛り上げる要因になってほしい。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">取り組み結果・成果</p>	<p>■取り組みの成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物支援の必要性を共有できた。 ・ 大型スーパー（西新井アリオなど）への買い物支援の希望あり。（新たな地域課題） ・ 会長以外の役員も受け身的な姿勢ではなく、自分たちで実現しようという活気が生まれた。 ・ 行事保険の費用助成がない。（課題） ・ ニーズの実態数と供給量との差が不明確。（課題）
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">課題解決のために不足しているもの</p>	<p>■個別レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ メンバー間のプロジェクトの趣旨や内容の理解 ・ 新規の協力者及び利用者の募集 <p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 送迎に対応できる介護サービス事業者の募集 ・ 町会、自治会や協力機関など、賛同・関わる機関増 ・ 保険やチラシなどの費用面及び各役割の負担分散 ・ 絆や二層業務など他事業との連携により、孤立・実態把握等にも活用 ・ 管理栄養士の介入による栄養指導やフレイル予防、足立ベジタベライフの推進 <p>■ブロック圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉協議会の広報を活用し、他の包括でも同様の展開ができるか検討 <p>■区レベル・広域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行事保険の費用助成制度の確立 ・ 移送支援サービスなど新しいサービスの創出

新型コロナウイルス禍における地域の取り組みについて

地域包括支援センター（関原）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>新型コロナウイルスの感染拡大により、サロン活動をはじめ町会・自治会の活動、住民個々の活動のほとんどが自粛を余儀なくされる状況となったため、4月～5月、生活上の困難及び地域の取り組み状況の調査を実施した。その結果、「認知機能の低下が顕著」「人が集まる活動ができないことで何をしたらよいか悩んでいる」等のニーズが明らかになった。このような状況を他団体・関係機関と共有し、今後について検討することとした。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>出席機関・団体名 地域活動団体10団体（劇団うめはる、つくし会うめだ、しまいいとこサロン、アンドスプーン等）、牧野篤東京大学大学院教授、基幹地域包括支援センター（第1層地域支え合い推進員）、NPO活動支援センター、地域包括ケア推進課、絆づくり担当課</p> <p>各団体の意見（主なもの抜粋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍で予定されていた公演がすべて中止になってしまった。メンバーと顔を合わせていない。団員のモチベーションが下がってしまう。（劇団うめはる／高齢者サロン） ・ 4月からのサロン立ち上げに向けて準備していたが、コロナの影響でまだ開催できていない。（つくし会うめだ／高齢者サロン） ・ サロンスタッフや参加者に向けて電話での安否確認を行っている。会場を貸してもらっている施設にマスクを100枚製作し寄付した。（しまいいとこサロン／高齢者サロン） ・ 週1回の脳の健康教室が3か月自粛となっている。主に電話で安否確認をしたが、一部の人は手紙のやり取りをした。インターネットではない、電話や手紙の良さが見直された。（スマイルエイジングパートナー／高齢者NPO） ・ 子育てママに向けて、アプリや動画で情報発信した。（アンドスプーン／子育てサロン） <p>牧野篤教授からの助言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ これまで慣れ親しんだ生活を変える必要に迫られているが、今後は単純に「コロナの前に戻る」ことを待つのではなく、「新しいつながり方をつくるチャンス」でもあると考えて取り組んでいくことが必要である。（取り組みの姿勢） ・ 「三密を率先して行っていた社会」から「集まらない社会」に移行するが、人と会っていけないわけではない。小さい集まり、雑談ができるような場所は大事。働き方が変わり、お父さん世代が自宅にいることも多くみられるようになっている。子ども・大人・高齢者が世代の縦割りで集まっていた時代から、多世代が混在して一緒にいるような集まり方も開発していけるのではないかと。（多世代交流） ・ 今後、オンラインツールは不可避免的に普及が進んでいく。使える人には参加・発言の障壁を下げる一方で、使えない人との間で差が広がっていくことも懸念される。（デジタルディバイド）等

<p>取り組み結果・成果</p>	<p>会議の結論</p> <p>感染の第2波、第3波が起こる可能性が高いといわれるなかで、サロン活動等の地域活動において、どのようにして人と人とのつながりの維持を図っていくかが共通した課題であることを確認した（オンライン／オフラインを含めた新しいつながり方の開発の必要性）。</p> <p>地域包括支援センターとしては、非参集型の間接的な交流プログラムづくりや介護予防、認知症、見守り等の活動におけるICTの活用について取り組んでいくこととした。</p> <p>会議後のアンケートの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「すごく久しぶりに顔を合わせて話げできたことが良かった。同じ地域の人との活動交流になった」（こども食堂・NPO） ・ 「若い人のパソコンやインターネットを使ったハイテクな活動やこども食堂のお弁当配食も素晴らしい。高齢の団体の活動にも勇気づけられました」（高齢者・サロン） ・ 「これからの日常生活も生活スタイルも工夫すれば変えていかれる。昔の生活にどれくらい戻れるかではなく、前をみて生活に慣れていくよう頑張りたいと思います」（高齢者・サロン） ・ 「悩みながらお弁当の配布を始めたが他の団体の動きが分からないため不安があった。今回複数団体の活動の話が聞け、自分たちのできることに実践例を知ることができた」（高齢者・NPO） <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>課題解決のために不足しているもの</p>	<p>ICTの活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 個別レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ スマートフォン等、機器の活用スキルの向上 ■ 包括圏域レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者のスマートフォン等、機器の活用スキル向上の機会創出 ・ 介護予防、見守り活動、災害時等におけるICT活用プログラムの試行 ■ ブロック圏域レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 包括圏域レベルの取り組みの共有 ■ 区レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT活用の基盤整備 <ul style="list-style-type: none"> － 感染拡大時に備えたインフラの整備や会議形式設定等の対応 － 通常時におけるICT活用によるセンター業務効率化の検討

災害時に役立つ知識と行動

～台風19号上陸！～

地域包括支援センター（千住西）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
テーマ選定の理由	<p>2019年10月 東京に台風19号が上陸した。 足立区は、「避難勧告」を発令。次々と避難所が開設された。 地域の防災士・病院の相談員・災害ボランティアチーム・ケアマネジャー4人の専門職から当日の体験談をうかがい、地域で「災害時に役立つ知識と行動」について考えたい。 シンポジウム形式で開催。コロナ感染予防パーティション使用・席の配慮・参加人数制限。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>【地域ケア会議の概要】</p> <p>■登壇者：地域防災士 中嶋氏・災害ボランティアチームあだち 多田氏 4名 ゆいま～る足立 主任介護支援専門員 平塚氏・愛里病院 相談員 三木氏</p> <p>■出席者：絆のあんしん協力員・千住桜木2丁目町会長・民生委員 25名 絆のあんしん協力機関→ファーコス薬局 薬剤師・帝京科学大学助教授 居宅支援事業所のケアマネジャー・LE在宅・施設訪問看護・リハビリステーション 絆づくり担当 山本氏・渡辺氏・地域包括ケア推進課 有坂氏 危機管理部災害対策課防災計画担当係長 木村氏・災害対策係 田中氏</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>【検討内容】</p> <p>■登壇者4名から、昨年の台風19号の体験談を発表していただく。</p> <p>「避難所の現状」地域の防災士 中嶋 喜文氏 学校関係者とボランティア活動開始。避難所ではトイレトペーパーが不足した。 「自分で逃げる勇気」を持ち、早めの行動を。 避難者は、「避難所はホテルではない。」という意識をもつこと。</p> <p>「自宅で待機」災害ボランティアチームあだち 多田 賢一氏 おうち防災「7.5.3」日頃から準備が必要。7→非常食7日分をローリングストック。 5→整理・整頓・清掃・清潔・安全の5S。3→ひとり1日 3ℓの水が必要。 あると便利な物：携帯ラジオ・簡易トイレ・カセットコンロ・ティッシュ・衛生用品。</p> <p>「高齢者支援」ゆいま～る足立 平塚 純子氏 2日前から利用者へ安否確認開始。優先順位は、①ひとり暮らしの方②平屋の方 ③医療管理が必要な方（透析・在宅酸素・胃瘻・エアマット等） 「1階の部屋を2階へ移動するには人の手が必要」ご本人・家族と事前に話し合う。</p>

ケア会議の概要、検討内容	<p>「病院内の様子」愛里病院 三木 聡氏 職員の勤務調整（マンパワー確保）からスタート。窓ガラスの養生。外のごみ箱撤去。 施設の破損や他者への被害を抑える。窓際の患者さんを移動。 1階を避難者対応のため開放準備。病院では「BCP（事業継続計画）が義務。」</p>
	<p>■足立区の水害対策について 災害対策課防災計画担当係長 木村 正雄氏 コロナ×水害対策特集（あだち広報8月号参照）三密対策→分散避難のススメ。 ① 在宅避難→②縁故避難→③避難所へ避難。特定職員と避難所（小・中学校）と連携 震災は、「避難所運営委員会」のメンバー。水害は「区の職員」が動く。</p> <p>■意見交換 管理栄養士 齋藤氏 非常食はタンパク質・ビタミン・ミネラルが不足になりがち。鯖缶・トマトホール缶・野菜 ジュース等で補う。「災害時は心を落ち着かせることも大事。」たとえば菓子持参。 ケアマネジャー 榊原氏 たとえば、災害時には都営住宅の上層階の空き部屋を活用できないか？ 木村氏 回答…空き部屋は流動的。毎回空室ではない。区はホテルと提携を結ぶ等の 動きをしているが、区民全員収容できない等、なかなか難しい。 民生委員 小嶋氏 今年は、避難が必要な障がい者・高齢者を訪問する予定だったがコロナの関係で訪問中止。し かし、コロナが落ち着いてきたら少しずつ始めていきたい。</p>
取り組み結果・成果	<p>■取り組みの結果（出席者からの意見・感想）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域での防災に関する意識を高める訓練をしていきたい。 ・ 災害は事前準備と臨機応変に対応が必要なのだと感じた。自助・互助が大事。 ・ 地域の力で支える仕組みが必要だと痛感した。逃げるのも一人ではできない。 ・ 仕組みづくりも一人ではできない。地域の一人としてかかわっていきたい。 ・ 災害に対する住民の危機感が必要。ローリングストックを見直す機会としたい。 ・ 多田氏の7.5.3が良かった。避難用品を多く用意する。教訓になることが多かった。 ・ 家族で分散避難・早めの行動などを話し合っておきたい。 ・ 管理栄養士さんの話が良かった。普段、食べているチョコレートを持って行く。 ・ ケアマネジャーが介入していない高齢者の方を災害時にどのような支援するか？ ・ 独居高齢者が多く、移動ができない。危機感のない人も多く、支援が不足している。 ・ 一人暮らしの方が増えて、家にこもる人が多くなっている。 ・ フットワークは軽く！を心がけるとともに、なにかあったら「実行」する。 <p>■取り組みの成果</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 会議のアンケートの記載からおおむね、自助意識が高まったことを感じた。 ② 専門職が体験された災害時の初動や対応を地域住民と災害対策課と共有できた。 ③ 専門職の皆さんとより良い関係が深まった。（地域連携・ネットワーク構築）
課題解決のために不足しているもの	<p>■個別レベル 災害に対する危機感。ローリングストック。家族と話し合い。 ■包括圏域レベル 町会単位で独居・高齢世帯への避難の声かけ。見守り体制。 ■ブロック圏域レベル 避難所以外に避難できる場所の確認と発掘。 ■区レベル 水害対策の状況（情報）を区民へ提供。災害タイムライン啓発。 ■広域レベル 地震・水害・火災・感染症等さまざまな災害の想定。</p>

介護保険と障害サービスを併用している要介護5の方の支援について

地域包括支援センター（千住西）

機能	■個別課題解決 ■地域・ネットワーク構築 □地域課題発見 □地域づくり・資源開発 □政策形成
理由・背景 テーマ選定の	重度訪問介護（577.5時間）を活用しているが、介護職員は移乗介助に限界。腰を痛める。肩を脱臼する。肘を痛める等の支障が出ている。いつか大怪我をするリスクがある。 さらに本人からのヘルパー・サービス提供責任者に対する暴言により事業者が次々と撤退。ケアマネジャーは度重なる調整に疲弊している。介護保険・障害者総合支援法併用のケアマネジメントを含め、この方を支援していくには、地域での連携・協力が必要である。
ケア会議の概要、検討内容	■出席者 15名 居宅支援事業所ケアマネジャー・障がい福祉課千住援護係・千住福祉課保護係・生活保護指導課適正推進担当・往診担当の医療機関・基幹地域包括支援センター <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> ■本人の現在の状況の把握 <ol style="list-style-type: none"> ① 往診担当の医療機関 看護師長 <ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年9月往診導入・脳性小児麻痺・痙性四肢麻痺・便秘・排便コントロール必要 ・ この方の介護方法はかなり高度な技術が必要。リフト導入拒否 ② 居宅支援事業所 担当ケアマネジャー <ul style="list-style-type: none"> ・ ヘルパー事業所を探す限界がきている。本人がヘルパーを気に入らない等 ・ ヘルパー交代・撤退頻度が激しく落ち着かない（2～3ヶ月に1回は事業所探し）。 ③ 地域包括支援センター千住西 主任介護支援専門員 <ul style="list-style-type: none"> ・ 一番大変なのは移乗介助で介護職員が体を痛めてしまう。いつか大怪我するかも。 ④ 以前に担当していた居宅支援事業所 管理者・主任介護支援専門員 <ul style="list-style-type: none"> ・ 本来ならば、介護用リフトが必要な状態であるが、「リフトは人間的でない！」と。本人は新しいことが入らない。権利主張が常識範囲を超えている。口が悪い。 ・ たとえ関係ができて、ケアマネ・ヘルパーが「自分のケアするのは当然だ！」と。 ■本人の権利主張が社会性を逸脱しているのではないか？道理が通らない。 ケアマネにとって、介護保険の訪問介護・重度訪問介護の調整が大きな負担。 <ol style="list-style-type: none"> ④ 基幹地域包括支援センター <ul style="list-style-type: none"> ・ この方だけでなく、苦情内容として権利的なことが多い（社会的課題）。 ・ これまで障害サービスを利用してきた方で納得してもらえないパターンが多い。 ・ 自分の主張が一番。ヘルパーを奴隷と思っている？納得いくような解決にならない。 ・ 事業所が疲れ果ててしまう。

	<p>■個別のケースというより、社会的な課題である。 援護係は、障害から介護保険へ移行するとき、本人へきちんと説明がされていたのか？ 利用者から「介護保険ではなんでできないのか？」と責められる。</p> <p>⑤ 障がし福祉課千住援護係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明責任がある。ケアマネジャーさんと一緒にやっていく必要があると思う。 <p>⑥ 生活保護指導係 適正推進担当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ この方は在宅がいい。性格は直らず、これが生きがい。支援者側が傷つく必要はない。 <p>⑦ 地域包括支援センター千住西 主任介護支援専門員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 危険回避の方法を考えなければならない。ポータブルトイレ介助を拒否。住環境改善は？ <p>⑧ 居宅支援事業所 担当ケアマネジャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重度訪問介護のヘルパーは若い人が多く力がある。しかしそのヘルパーも怪我して撤退した。 <p>⑨ 生活保護指導係 適正推進担当</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ このままでいくと時間の問題できっと引き受ける事業者がなくなる。 ・ 障害のヘルパーと介護保険のヘルパーへ「同じようにやれ！」というのは無茶である。 <p>⑩ 地域包括支援センター千住西</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後ケアマネジャーは、千住ケアマネットを活用し別の事業所へ変更 ・ 援護係で重度訪問介護の調整をしていただけないか。 <p>⑪ 障害福祉課千住援護係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいの相談支援はケアマネジャーほど整えられていない。いまは過渡期…。
<p>取り 組み 結果 ・ 成果</p>	<p>■話し合いの結果</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ケアマネジャーだけがやるのではなく、地域や援護係の協力が必要。 ② 移乗介助のリスクに関しては、障害（重度訪問介護）でおこなう方法。 ② 住環境改善ができるか？障害の予算確認。 ④ 本人にはできないことは「できない」と伝えていく。 「支援者側だけが傷つく必要はない。」関係者で一致団結していく。 本人が、「それは虐待だ！」というのなら虐待 or クレーマーか。組織的にみていく。 <p>■取り組みの成果</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 現在の関係者だけでなく、以前担当していた居宅支援事業所も協力を得られた。 ② また今後、引き継ぐ事業所も出席し、本人のこれまでの状況を共有できた。 ③ 重度訪問介護の事業所探しは、障がい福祉課千住援護係も協力することになった。 ④ 事業所の引継ぎには障がい福祉課千住援護係・千住福祉課も同席することになった。 介護保険と障害施策の課題が浮かび上がった。この会議を通じ関係者の理解が深まった。
<p>課題 解決 のため に 不足 している もの</p>	<p>■個別レベル 65歳でいきなり介護保険へ移行されてしまう戸惑い。 介護保険移行に関して、介護保険制度を知る機会。</p> <p>■包括圏域レベル 障害者を支援するインフォーマルサービス。</p> <p>■区レベル 障害施策と介護保険の違いについて本人へ説明。</p> <p>■広域レベル 障害者総合支援法等と介護保険のサービス内容と量の格差。</p>

コロナ禍だからこそ、これからもつながり、支えあうために

～訪問がしにくい状況でどのように安否確認をするか？～

地域包括支援センター(千寿の郷)

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
テーマ選定の理由・背景	<p>コロナ禍において訪問がしにくい状況下で、どの様につながり、支え合いの継続ができるのか。地域の課題と今後の取り組みへのヒントを、協議の中から共有し、各自の取り組みの意識へつなげる。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■実施日：令和2年9月29日（火）10：30～11：30 ■場所：あずま住区センター ■登壇者：・基幹包括地域福祉課 垣本氏 ・地域包括ケア推進課 浦川係長 ■出席者：・民生委員(11)・絆のあんしん連絡員(10)・絆のあんしん連絡団体(2) 26名 ・町会、自治会(4)・訪問介護事業所(1)・歯科医院(1)・居宅支援事業所(1) ・介護サービス事業所(1)・行政(4)</p> <p>【検討内容】</p> <p>■第二層協議体とは何かについて、基幹包括支援センター地域福祉課 垣本氏より説明。その後、参加者数名から意見発表。前回、7月のあんしん連絡会の話題をもとに、『つながりを続ける工夫』と、それぞれの活動の中での気づきについて、意見を述べ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員として、チラシを定期的に配布し声かけを続けていく。 ・ 高齢者の中では人と話せない事でもの忘れの進行が見られる。体操教室の再開で改善を図る。 ・ マンション内の体操教室の再開。 ・ 75歳以上の敬老訪問時、絆の手ぬぐいを一緒に配布した。好評だったが、インターホン越しも多く、状況把握が難しい。 <p>■地域内の事業所やあんしん協力機関がコロナ禍においてどのように活動を行っているのか、報告をしていただき、情報の共有や交換を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●NPO法人たんぽぽ会： 先ずは家から出てきてもらおうと始めたお弁当販売。長いおしゃべりは回避し、挨拶だけを中心に対応中。現在は150食を作るほど、購入希望が増えている。また、アンケートを行い、「コロナ禍でどのように過ごし、よいことがあったか」と聞いており、利用者へのストレス度をはかり、外出自粛中には訪問をし、安否確認を行っていた。 ●あだち健康友の会：活動開始に向け、感染症の学習会実施。会員へのアンケート。 ●柳原東町会： 町会に班体制をしいているが、加入者数のバラツキ、町会担当者の高齢化等の問題が起きている。精度の高い安否確認を目指し検討中。また、避難行動要請者リストが包括センターに配布がない為、リスト者への訪問を包括と一緒にいう事で、安全度の向上につなげるとのことができるため、今後検討の要望がでた。→これに対しては、重度介護者で避難行動要請者リストへ記載されている場合、ケアマネが情報を把握している事もあり、ケアマネとの共有も必要であることが指摘された。ただし、個人情報の問題があり、今後も協議が必要である。

■取り組みの結果（出席者からの意見・感想）

地域ケア課浦川係長より以下の話をいただく。

- ① あんしんネットワークの活動は、20年の歴史があり、足立区としては元々二層協議体に近い活動を展開していた。地域で支え合う仕組みづくりを地域住民で話し合い作っていく。二層協議体とは、そのような活動であり今後もその仕組みづくりが求められている。
- ② コロナ禍での活動については、区が新型コロナウイルス感染症に関する事業所向け情報提供をホームページ上で行っている。正しい情報のもと、「正しくおそれる」対策を取りながら活動の展開につなげていくことが、大切である。

これらをうけて、今後も絆のあんしん連絡会を通じて、お互いの活動を知り、それぞれの立場でつながりの在り方を情報共有していくこととなった。また、コロナ禍において町会や自治会で何か感染対策をしながら取り組むときには、2層業務を担う包括へも相談していただき、ともに取り組むことが話された。

■取り組みの成果

コロナ禍で活動の展開が制限される中、工夫しながらも実施・再開している方々の取り組みが、一つの光明として、それぞれ地域の中で役割を担っている参加者一人一人に届いたと思われる。前回に引き続き、今回は更に参加者が増えている。このことは、活動を再開してつながりを切らさない方法を、前向きに検討したい各自の意向の表れと捉えることができる。

定員いっぱいので大勢の参加と、活発な意見がきかれました。



■個別レベル

■包括圏域レベル

- ・ 絆のあんしん連絡会を通じて、今後も絆づくり、つながりを切らさない活動について、各自の意識向上、実際の活動への発展につなげていく。具体的な行動へ移していく為の、包括としての支援方法等。
- ・ 二層協議体についての理解を深めるため、働きかけの方法など。

訪問時の感染対策をしよう

地域包括支援センター（千寿の郷・日の出合同）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>コロナ禍の中、対応についての方向性が見えない時期での、千住地域の訪問系介護事業所における感染対策を情報共有し、感染管理を標準化する。</p> <p>事業所が、従事者の感染防御（防護用の調達と付与、知識・技術の共育）の責任を持って行えるようになり、従事者が、必要な感染防護用具を用い、感染予防行動がとれることを目標に、テーマを選定した。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■実施日：令和2年6月23日（火）10：00～11：30</p> <p>■場所：足立区ボランティアセンター</p> <p>■参加者：・訪問介護事業者(9事業所)・居宅介護支援事業所(8)・訪問看護事業所(4) 28名 ・区役所・基幹包括・地域包括（2）</p> <p>【検討内容】</p> <p>■7 訪問介護事業所、4 訪問看護ステーションへアンケート調査を行い、訪問系介護現場の実情を事前にリサーチし、課題を共有した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 複数のケースで、濃厚接触の疑いだけでも自主的に2週間自宅待機。ヘルパーが濃厚接触者となったが対応方法の指示はなく、PCR検査もしてもらえず、不安と恐怖でヘルパーが退職した事業所もあった。陽性者発生、濃厚接触者に特定されたことで、現場はパニックになった。目の保護をしなかったため、暴露リスクが高く自宅待機になったケースもあり、高齢者の健康状態や感染リスクの高いケア内容ごとの対策を行うことが必要であるとわかった。具体的な対策を学びたい。 2 感染リスクからショートステイの利用を断られる事態が発生する等在宅にしわ寄せがくる構造となった。又、現場管理者に感染対策の情報入手や調整指示等の責任を担わざるを得なかった。 3 未知の対応でガイドラインも無く、現場は感染の不安と恐怖で毎日追い詰められていた。 4 誰も経験した事がなくリスクが高い。今後2波3波も考えられる中、今回学んだ事を整理する必要がある。ガイドライン作成も望まれる。 5 マスクの入手は可能になったが、アルコールが入手できないなど、必要物品の調達や備蓄の方法に課題が残った。想定外の事態であったため、今回の情報共有を踏まえて、今後は事業所内で検討していきたい。 6 訪問看護事業所から学習会の取り組みの紹介があった。看護師からは、訪問介護事業所への出張学習会もするので、予算措置して欲しいとの意見があった。地域の資源を活用しネットワークを作って協働する体制が必要であることが述べられた。区としてもマニュアル作りの作業を開始したので参考にすること、研修等の要望をもっと上げて欲しいとの意見が述べられた。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">取り組み結果・成果</p>	<p>■今回の会議を通して、実際に現場で働いている方々の声を聴くことができ良かった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体として学習不足、防護具の不足、対策の不足、利用者との認識のずれ、相談窓口の分かりずらさ、チーム間の連携の問題などの課題があげられた。いずれの課題も事業所の自助努力に依拠していた。 ・ 何が正解か分からず、不安が広がり、過剰防衛になる中で、標準的な対応を示すガイドラインの必要性が求められた。常に最悪を想定した対策は必要だが、事業を継続するための教育は介護従事者個人、事業所、地域として必要になってくるとされる。医療職と介護職では、感染管理に関する基礎知識、技術の蓄積が異なる。高齢者の健康も従事者の健康も守るためには、今後も現状を正しく認識すると同時に、勉強会を開催するなどの対策を講じる必要がある。 ・ 訪問看護師からは、地域の感染管理の底上げをするために知識と技術を生かしたいとの意向があり、感染管理認定看護師を活用するなど一案であると考えられた。地域の医療機関等との協力も考慮した、区全体での取り組みも検討いただけるとありがたい。 ・ 事業所によって防護具の認識に差異があり、防護具の大切さを考え直すきっかけになった。特に目の保護の認識が低かったが、改めてその大切さを認識してもらえた事は収穫だと思われる。 ・ 今回は現場での体験を事前リサーチし、更に体験談を共有したことで、よりリアルに各事業所が抱えている課題が明らかになったことが成果と言える。地域の各事業所が守り合えるようなネットワークを作る必要性を確認し、訪問看護師からは訪問介護事業所への出張学習の提示もあり、対策の具体化が示された。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">課題解決のために不足しているもの</p>	<p>■個別レベル</p> <p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各事業所が対応している感染予防の情報共有。 ・ 地域での事業所間の感染に関する情報のずれを解消するための情報提供。 <p>■ブロック圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の訪問看護師の事業所で勉強会を行っており、定期的に情報がアップデートしている。地域で勉強会等を開催する事で、感染予防に対する知識の共有。 <p>■区レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症の収束の目途が立たない状況の中で、今後も利用者、医療介護従事者と家族への感染・濃厚接触の発生が予測される。常に最悪を想定しながら、医療介護従事者もぎりぎりの精神状態で毎日ケアに従事している。利用者や家族も同じ状況である。このような中、感染予防に対する認識のズレや不安から派生する差別的発言、風評被害が実際に起こっている。精神的な負荷の緩和の為にも事業所間での対応の統一、連携強化、メンタルヘルスなどの対応を保証できる仕組みづくりが必要と思われる。

やってみよう！公園の花壇づくり

地域包括支援センター（千住本町）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景の テーマ選定の	<p>かつてはゴミが散乱する公園を7年かけて花壇を整備し、花いっぱいにした『千住ほんちょう公園・すみれ会』（以下すみれ会）は、住民主体の団体である。このメンバーより、花壇づくりのノウハウを他の地域住民へ伝え広げていきたいと提案された。コロナ禍でもできる活動であり、既存の住民団体活動を支援していくことで、ネットワークの構築や地域づくりを図りたい。</p>
ケア会議の概要、 検討内容	<p>《地域ケア会議の概要》</p> <p>■実施日：令和2年8月24日（月）14：00～15：30</p> <p>■参加者：22名 すみれ会・千住男男キレイ隊（4）老人会（1）あんしん協力員（3）あんしん協力機関（2）民生委員（3）区役所（3）基幹・包括（6）</p> <p>《検討内容》</p> <p>■登壇者：すみれ会会長田中心一氏</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園の花壇づくり活動の報告 日々の活動を通じて、地域を超えた老若男女問わず顔見知りの関係ができた。地域をきれいにして見守りたいという仲間ができ、一緒にビューティフル・ウィンドウズ の精神を広げながら、美化活動による防犯効果を認識した。 公園の花壇自主管理団体としての活動を通じて、ノウハウが蓄積できた。 男の居場所づくりから発足した、「千住男男キレイ隊」の公園清掃活動の紹介。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="280 1207 635 1471"></div> <div data-bbox="662 1207 999 1471"></div> <div data-bbox="1027 1207 1390 1471"></div> </div> <p style="text-align: center;"> <すみれ会> <花いっぱいの公園花壇> <千住男男キレイ隊> </p> <p>■具体的な提案</p> <ul style="list-style-type: none"> 歴史巡りで人気の千住中居町公園（包括千住西エリア）をターゲットにする。 包括千住西と合同で花・プロジェクト千住と名付け公園の美化活動の説明会を開催。 地域住民への呼びかけにより、緑の好きな人を集め参加者を募る。 代表者を決め、公園管理課と花壇の自主管理協定を締結する。 はじめは小さな花壇からスタートし、徐々に花壇面積を増やしていき軌道に乗せる。 東京都公園協会の東京都都市緑化基金、「花壇・庭づくり活動支援事業」助成金を受ける。 令和3年度に開催される「花いっぱいコンクール」へ参加し、入賞を目標にする。 <div data-bbox="1107 1794 1453 2024"></div> <p style="text-align: right;"><すみれ会の受賞の数々></p>

《取り組み結果》

- ・ 包括千住西エリアから代表者が決まり、花壇自主管理協定を締結することができた。
- ・ すみれ会のメンバーによる千住中居町公園の団体活動を支援していく。
花壇の土壌づくり、土の掘り起こしを共同で行い、花の種子をすみれ会が提供する。
- ・ 助成金を受けるまでの間の活動資金不足、園芸用具の準備や日々の花の世話、ゴミの処理方法、用具の保管場所の確保の検討課題が明確になった。
- ・ 活動をしてく中で、町会長や町会の皆さんと連携を図っていく必要性がある。



<現在の中居町公園>

■個別レベル

- ・ メンバー間の役割分担を行い、特定のメンバーのみに負担が集中しないよう配慮する。
- ・ 新規の協力者を募る機会を設ける。

■包括圏域レベル

- ・ 活動計画や進捗状況、実績を提示する機会を設けて、町会長や町会の賛同協力を得る。

■ブロック圏域レベル

- ・ すみれ会や千住男男キレイ隊などの活動団体が、包括圏域を超えた団体と協力関係を結べるように広報を行う。

■区レベル

- ・ 花プロジェクトの活動をあだち広報で取り上げ紹介してもらうことで、各地域でも同様の試みが起こるきっかけを提案し、区全体で盛り上げてくムーブメントにしていく。

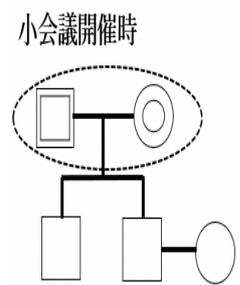
■広域レベル

- ・ 東京都公園協会「花壇・庭づくり活動事業支援」以外に、助成金や補助が受けられるような社会資源がないかを探す。

ひきこもり状態にある子の自立を願い、別居を決意した高齢夫婦支援

地域包括支援センター（中央本町）

機能	■個別課題解決 ■地域・ネットワーク構築 ■地域課題発見 □地域づくり・資源開発 □政策形成
テーマ選定の理由・背景	<p>1 地域の現状：今年度、エリアでの「8050」ケースは19件（うち虐待9件）と増加傾向</p> <p>2 個別事例の抽出</p> <ul style="list-style-type: none"> 70代高齢夫妻（介護度なし）。40代長男（20代後半時、職場での人間関係に悩み退職、ハローワークで就職活動を繰り返すが失敗）と夫は二人暮らし（戸建て）。妻は十数年前に息子の暴力行為に不安を感じ集合住宅を避難場所として購入し単身生活 <p>3 開催の契機</p> <ul style="list-style-type: none"> 数十年来にわたり、ひきこもり状態にあった息子から暴力を受けていた高齢夫妻が長男の自立を願い、区外に転居することになった。今回の夫妻区外転居を機会にして、①今後の夫妻の長男に対する適切な距離の取り方の確認、②夫妻、長男の経済状態及び問題の確認（今後の長男の公的活用検討）、③夫妻と長男を取り巻く支援者の連携体制づくり（役割分担、連絡網確認を含む）、④当センターエリアで増加する「8050問題」対応に求められる地域課題の分析を深めるため会議開催に至った。 <p>4 事例特徴：【ボーダー】→【家族の孤立】→【コロナ禍での生活困窮】→【家族関係悪化】</p> <ul style="list-style-type: none"> 10年ほど前、長男は精神科受診（救急搬送）をしたが、適応障害の診断、支援にはつながらずひきこもり状態が長期化、かつ暴言、暴力が夫妻に対して生じていたため、夫妻は行政等に再三相談に行ったが、明確な助言が得られなかった。いつしか夫妻は「家の恥」、「自分たちで解決するしかない」と考えるようになり、「世間」から孤立。 コロナ禍の影響により、家計を支えていた夫が失業、世帯が生活困窮に陥るなかで、家族関係が悪化。一時収まっていた夫妻に対する長男の暴力等が顕在化、長男は現行犯逮捕《包括介入》、措置入院となったが、入院先でも明確な診断はつかず在宅復帰した。 <p>主治医：「長男の自立のために、距離をとるべき」 警察：「安全のため夫妻転居を勧める」 ●妻：「自分たちが離れてしまって、長男は本当に大丈夫なのか・・・」、夫：「・・・（沈黙）」</p>
	<p>(1) 参加者：10名（本人参加型）</p> <p>本人（夫妻）、くらしとしごとの相談センター（係長、生活サポート相談員）、ジョブサポートあだち、保健センター（照会）、警察（照会）、転居先包括、包括</p> <p>(2) 場所：1部：当センター会議室 → 2部：当センター1階相談室</p> <p>(3) 会議開始前の工夫（※本人参加型個別会議）</p> <p>ア 夫妻と協働して、メンバーの選定、進行の流れ、当日資料を作成</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで外部に情報や真意について話そうとしてこなかった夫妻とひきこもりまでの経過を振り返りつつ「経過情報シート」等を協働して作成。夫妻の意向を丁寧にたどった <p>イ グループサイズへの配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> 当事者である夫妻が本音を話しやすいよう、参加者を8名に抑えた。また1部会議終了後、2部として、夫妻と新担当包括職員との間で改めて顔合わせの時間を設けた <p>ウ 高齢夫妻の理解に配慮した関係機関の紹介</p>

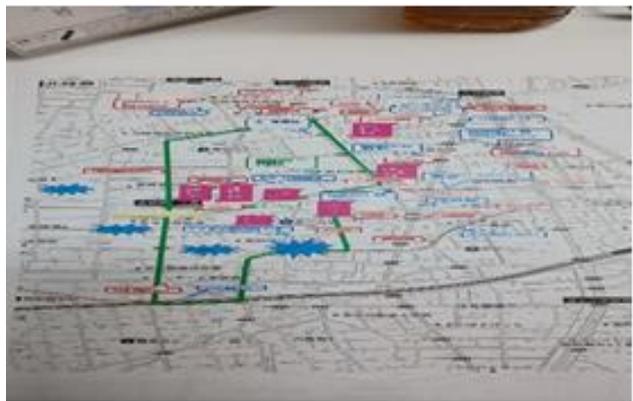
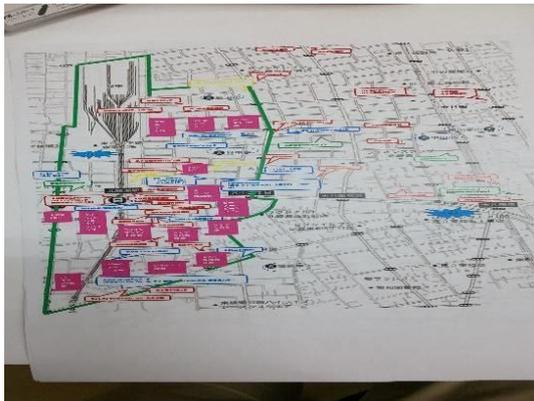


<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ケア会議の概要、検討内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各関係機関発行のチラシを活用して、参加者に自己紹介と機関紹介をしていただいた <p>(4) 当日の進行：(1部：15：00～17：00)、(2部：17：10～17：30)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1部 <ul style="list-style-type: none"> ア 参加者紹介 イ 世帯全体のこれまでの経過共有 (『経過情報シート』を活用) 《夫妻・包括》 ウ これまでの経過 (ひきこもり状態がどのように始まったのか) の振り返り 《夫妻》 <ul style="list-style-type: none"> ●妻：「なぜかいまはすごくホッとしている」、「この子は死ぬしかないと思っていた」 ●夫：「なぜ自分たちで問題を抱え込んでしまったのか」 ●妻：「このようにひきこもりの子を持つのは珍しいことなんじゃないか」 エ 区内におけるひきこもり支援の現状について 《行政》 オ 今後の生活についての希望確認 《夫妻》：①長男 ②夫妻 カ 長男に対する現在の支援状況：①医療 ②就労支援 ③生活その他 《行政、関係機関》 キ 課題検討 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 今後の長男子との接し方：ポイントと留意点 (イ) 済的問題についての整理：夫婦、長男 (ウ) 夫妻の転居先での生活についての確認 (エ) 役割分担、緊急連絡網確認 <div data-bbox="1027 658 1406 887" style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2部：夫妻転居先での生活状況共有と今後の関りについて 《夫妻、転居先包括職員》
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">取り組み結果・成果</p>	<p>ア 結果</p> <p>(ア) 十数年来、長男と「しっかりと距離」を取ることができ難かった夫妻が長男の支援者から現在の長男支援について説明を受け、今後の支援上の希望について述べる場を得たことで、今後の①長男の生活の自立と精神状態の安定、②夫妻の安全確保と経済生活の安定のため、夫妻が長男と距離を取ることについて覚悟を促すこと機会となった。</p> <p>【個別課題解決】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●妻：「今までは私達しかいなかった。これだけの人があの子に関わってくれている。任せたい」 (イ) 世帯の見えにくかった情報と経済問題を含めた複合的な課題を整理する場をもつことで、世代や属性が異なる高齢夫妻と長男の課題を多機関で包括的に受け止め、公的制度活用等、今後の支援上の方向性を具体的に組み立てることにつながった。また長男支援者側へ今後の長男支援についての出かかりを見出すことにもつながった。【個別課題解決】 (ウ) 役割分担、また通常時、緊急時の連絡網について確認を図ることで、多機関の関係者が連携を図るための総合調整がなされ、今後の世帯全体を支援する体制を整えることができた。 <p>【ネットワーク構築】</p> <p>イ 課題：制度の狭間に陥り (精神障害ボーダー)、また過去に窓口相談を繰り返したが支援につながらず、パワーレスになっている家族に対するアプローチ 【地域課題発見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●夫：「分かったことは、今まで自分達家族にはきっかけがなかったということなんです」
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">不足しているもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■個別レベル (課題)：長男が本格的に生活困窮に陥った際、公的制度活用に向けて、長男にどのように働きかけをしていくか ■包括圏域レベル：ひきこもり家族に対しての心理的ケア、セラピーの場？ <ul style="list-style-type: none"> *家族会参加に抵抗のある家族・・・ ■区レベル：包括やケアマネジャーといった高齢側の支援者と子側の支援者間の更なる連携強化 (高齢分野の専門職も参加した総合調整型会議) <ul style="list-style-type: none"> *支援調整会議と地域ケア会議の使い分け

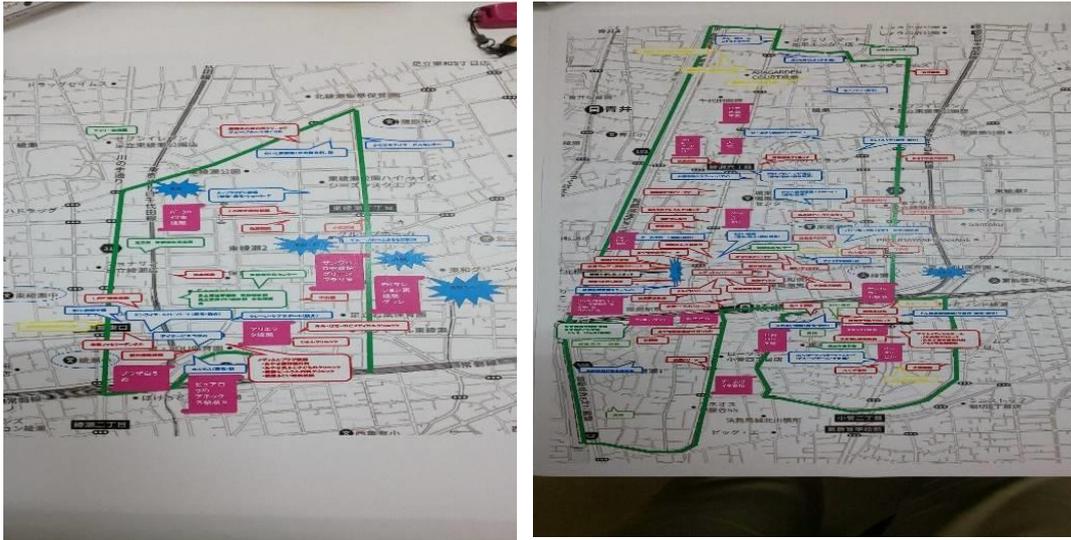
地域資源MAPづくり 地域の資源の発掘と足立区ハザードマップの活用

地域包括支援センター（東和）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景の テーマ選定の	<p>地域のみなさんとともに地域資源MAPを作成することで現在の生きた情報として地域の特性、利点、欠点を把握し、地域の課題を明確にする。水災害の時期でもあり、コロナ禍での避難にも注目が集まっているので足立区ハザードマップを地域資源MAPに取り入れ、避難方法の共有も図りたい。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■参加者 民生委員・絆のあんしん協力員・絆のあんしん協力機関・町会、自治会</p> <p>■みなさんで地域の資源を発掘しましょう</p> <p>東和地区を①綾瀬グループ、②東和・東綾瀬グループ、③谷中グループに三分割。それぞれのグループごとに医療機関、介護事業所、公共機関、障がい事業所。サロンその他地域の情報をそれぞれのグループごとの地図に書き入れて、グループごとの地域の特性、利点、欠点を話し合いした。</p> <p>① 綾瀬グループ 医療機関やサロン、介護事業所が豊富。障がい事業所は少ない。 ② 東和・東綾瀬グループ 医療機関や介護事業所はあるがサロンは少ない。 ③ 谷中グループ 医療機関等は豊富だが公共機関、サロンも少ない。</p> <p>全体として行政機関が少なく、特に谷中地域は不便である。 障がいの事業所や関連施設の認識が全体として薄く、把握できていない。</p> <p>■足立区ハザードマップを活用しよう。</p> <p>足立区ハザードマップ活用のための動画を視聴し、ハザードマップの見方や利用法を説明。綾瀬警察署より垂直避難について説明を頂き、垂直避難場所を共有。前回と同様に東和地区を三分割し、避難場所や神社仏閣、集会所など前回はふれられなかった点について地図への書入れを実施。</p> <p>① 綾瀬グループ 綾瀬には大きなポンプがあり、一助にはなると思う。 ② 東和・東綾瀬グループ パークタウンがあるので垂直避難は安心できる。 ③ 谷中グループ ピーアークは建物がしっかりしているので安心できる。</p> <p>全体として荒川が氾濫したら水没の可能性が高いことを共有し、すべての小学校が避難所になるわけではないことも確認した。</p>



■地域資源MAP



地域のみなさんが把握している地域資源を共有し、地域の特性を確認した。さらに水害避難にむけての対策と傾向のための情報を共有。身体が動ける方ならば自ら避難できる体制づくりの一步となった。特に緊急時水害から身を守る方法としての垂直避難について理解し、どの建物がそれにあたるのかをMAPに反映させることができた。

■個別レベル

- ・ シニア、プレシニアの集える場所が現状少ない。

■包括圏域レベル

- ・ 身体が不自由になった際、避難時に支援が受けられる社会資源がない。

■ブロック圏域レベル

- ・ バスの交通網が発達していない。

■区レベル

- ・ 地域によって行政機関が少ないため手続き等が難しい。

コロナ禍に地域でできることを考える

地域包括支援センター（中川）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景の テーマ選定の	<p>新型コロナウイルス感染拡大予防のために今年度は地域活動の大半が中止を余儀なくされている中で、改めて現在の地域課題を共有し、課題に対しての解決策を話し合うことで感染予防を図りながらも効果的に行える活動について協議をする。</p>
ケア会議の概要、 検討内容	<p>■「コロナ禍に地域で行える活動について」</p> <p>出席者：あんしん協力員、あんしん協力機関、民生委員、綾瀬警察、足立消防署、絆づくり担当課、基幹地域包括支援センター、地域包括支援センター</p> <p>意見：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 一律中止にするのではなく感染予防対策を十分にとったうえで実施する。 ・ 公共施設や民間施設など利用可能な施設の情報等が必要な方に届くとよい。 ・ オンライン等のインターネットツールの使用は高齢者には難しい。 ・ あんしん協力員などがオンラインツールの利用方法など初歩から学べる機会を持てるとよい。 ・ 高齢者は重症化のリスクもあり、参加する人の気持ちを大事にしながら再開を検討するべき。 ・ サロンの活動は自粛しているが外で会ったら励まし合う、電話で会話をするなど交流の機会は保っていきたい。 ・ コロナ禍での災害対策（避難を躊躇しないなど）周知してゆく必要がある。 ・ 感染しても差別などなく、理解のある地域を目指したい。 <p>結果：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後の地域活動のオンライン活用を考え、あんしん連絡会にて情報の共有、コミュニケーション、会議、講義などの手段としてのオンラインツールの講習会の実施を検討。 ・ 活動自粛中のサロンで、他の事例を参考に掲示板を活用した応援メッセージ募集など地域に発信できる活動を検討。 <p>■開催の工夫点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 検討前に基幹地域包括支援センターより協議体について説明していただき、地域の課題や解決策を検討する目的や意義について参加者で共有する機会を持った。 ○ 検討内容のイメージができるよう前回の連絡会での情報交換の振り返りや、コロナ禍での他機関の取り組みや工夫についても情報提供を行った。 ○ 感染予防対策で、通常の小グループでのグループワークは避け、口の字型にテーブルを設置した。事前に参加者に対し案内にて体調観察やマスク着用を呼びかけ、当日は検温、手指消毒の協力をお願いした。

<p>取 組 み 結 果 ・ 成 果</p>	<p>■活動再開に向けた前向きな発想の転換へ</p> <p>困難な状況下での様々な活動の自粛をやむを得ないとあきらめてしまい、活動を行わないという考えから、活動の必要性を再認識し感染対策をしながら活動できる方法はないか、直接面会できない中でコミュニケーションや交流を維持し見守りを継続できる方法はないかという発想転換を図ることができた。</p> <p>■今後の地域活動でのオンライン活用のためのオンラインツール講習会開催へ</p> <p>NPO活動支援センターのマッチングのもと、オンラインツール活用についての講習会の講師を新規設立した団体（デジタル生活研究所）へ依頼することができた。</p> <p>スマートフォンを使用したアプリケーション（LINEやYouTube）の初心者向けの実演などを含めた講習会を11月の絆のあんしんネットワーク連絡会にて実施。今後はオンラインツールの地域活動での活用方法について話し合いを進めていくことになった。</p> <p>■人生ココからフォーラムへの参加促進へ</p> <p>平成30年から地域課題であるプレシニアからの孤立予防・参加促進の取り組みを足立区東部ブロックを中心に、人生ココからキャンペーン活動として行っている。今年度はコロナ禍で集合型イベントが開催できずオンラインを活用したイベントの開催を予定。オンラインツール講習会の後に地域活動のオンライン化の一事例として周知し参加を案内した。</p>
<p>課 題 解 決 の た め に 不 足 し て い る も の</p>	<p>■個別レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シニア層の多くにオンラインツール活用技能が十分でない。 <p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ シニア層に向けたオンラインツール活用のための講習会等の機会が少ない。 ・ オンラインツールの地域活動への活用方法など学べる機会がない。 <p>■ブロック圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンラインツールの地域活動への活用方法など学べる機会がない。 <p>■区レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 町会自治会等の地域団体へICT活用の推進

孤立予防のためにできること

～新しい生活様式の中での繋がりづくり～

地域包括支援センター（西綾瀬）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>コロナ禍では、人が密に集うことや密接してコミュニケーションをとることを控えなくてはならない状況であるが、新しい生活様式下においても地域の繋がりとは何かを再度確認し、孤立させない繋がりのある地域作りのために、「今できる活動は何か」を地域住民とともに考えたい。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■参加者 町会会長、友愛クラブ副会長、男性の孤立予防の取り組み（GG会）企画会議メンバー、絆のあんしん協力員、絆づくり担当課、基幹地域包括支援センター、地域包括支援センター西綾瀬（計8名）</p> <p>※主に男性へ参加を呼びかけ ※コロナ予防のため、各所属1名ずつの参加を呼びかけ ※事前に参加者一人一人に、会議の目的について説明し、コロナ禍でも前向きに取り組みたいことについて事前に参加者へ提案を行った。また、東京都や足立区で官民限らず取り組まれている活動について情報収集を行った</p> <p>■参加者との意見交換 コロナにより人の集まる活動が中止となり、皆が閉じこもり傾向になっている。 町会や友愛クラブはどのような対策を行えば良いのか明確にわからず困っている！ 「顔を見るだけでも元気を確認できる」「会うことが大事」との気持ちは皆一緒！</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい生活様式下で行える取り組みとして、オンラインを活用した繋がりを検討するのはどうか。 ・ オンラインを活用できる高齢者が限られている ・ 高齢者はスマホ等の使い方以前に、何ができるのかさえ知らない。使い方がわかれば普及につながるのではないか。 ・ 多くの高齢者は興味を持っているが、企業等の窓口は利用しにくく足が遠のく地域に参加しやすい教室があれば、普及につながる。

	<p>■携帯電話会社と協働した初心者スマホ教室の開催</p> <p>「身近な地域で参加しやすい教室」があることにより、関心はあっても閉じこもり傾向になっている高齢者へきっかけ作りになる。</p> <p>足立区内の携帯電話会社の地域貢献活動と連携し、出前で介護予防教室を行うことで、知るきっかけ作りになる。</p> <p>■お互いに教えあえる環境づくりの検討</p> <p>上記、出前介護予防教室の周知を行う中で、「講師がいなくても、自分たちで活用の仕方を教えあえる集いの場があったらよい」との声があがっている。</p> <p>感染対策は行いつつも、スマホやタブレット等、すでに道具は所持している高齢者間で活用の仕方とともに学びあえるためのサロンづくりの要望あり。</p> <p>また、その機会を利用し顔見知りの関係作りや、アプリ等を活用した見守り体制を作ることへの希望も出ているため、要望を出してくれた方とともに今後環境づくりを行っていく。</p>
<p>取り 組み 結果 ・ 成果</p>	<p>■個別レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が個人のネットワークから得られる情報は限られており、加齢とともに情報収集能力も低下 <p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オンライン活用について「教えてくれる人が身近にいない」と思っている高齢者を繋ぐシステム作り <p>■区レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どの世代においてもITリテラシーが向上できるきっかけ作り

コロナ禍における地域の高齢者の現状・課題

～課題解決のための具体策と地域の担い手づくりの検討～

地域包括支援センター（西新井）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 ■地域・ネットワーク構築 ■地域課題発見 ■地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>コロナ禍において、訪問の制限を余儀なくされ、見守りの体制が困難な状況となっている。しかし、孤立化やフレイルとなる状況も懸念される。</p> <p>担い手の方々の現状や意見を持ち寄り、今できる事、今だからやるべきことの検討が必要。地域の支え手（担い手）の高齢化があり、次の世代へどのように繋いでいくかについて、その方法の検討が必要である。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■出席者</p> <p>民生委員（1名）絆のあんしん協力員（8名）西新井警察署ふれあいポリス（2名）絆づくり担当課（1名）基幹包括第1層生活支援コーディネーター（1名）地域包括ケア課（1名）包括西新井（4名）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>■＜コロナ禍でも実現可能な取り組み＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ あんしん協力員（シルバーピア在住）： 特に男性が部屋から出てくる人が少ない。孤立化している人が多いと思う。会ったら包括の事を知らせるようにしている。分かり易いチラシがあれば、配布したいと思う。（男性への関わり方について、意見交換） ・ あんしん協力員： 男性に声をかけるくらいはできるが、訪問したり、一歩中に入る事は、難しいと思う事がある。 ・ 民生委員： 閉じこもっている人に声をかけ、公園掃除に誘うと出てくる人がいた。 興味を持てる誘い方をしないと男性に出てきてもらうことは難しい。 <p>＜地域課題の抽出＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回（令和2年7月27日、第二層協議体会議）の解決策に出たチラシ配布について「メッセージカード」という形で作成をし、心配な方・見守っている方に配布できると良いのではないか。 ・ 配布するには色々な方の協力（担い手）が必要。近所の人に協力してもらったり、孤立ゼロで把握した事を活かしてはどうか。

<p>取 組 み 結 果 ・ 成 果</p>	<p>■<メッセージカードの内容について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 応援メッセージとして、俳句・川柳を作り載せてはどうか。 ・ 包括のPR（包括の役割、連絡先、職員写真）をより分かり易く載せる。 <p>■<地域の担い手について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際は若い方も含め、高齢者の事を心配し、見守り等の活動に協力したい人も多くいると思う。しかし、仕事が忙しく時間が拘束されるのを良く思わない人もいる。子供にも目を向け、付いてくる親を担い手として繋げる事ができれば良いのではないか。 ・ 活動できる高齢者に声をかけていく。 ・ 理美容店の人はお客様とコミュニケーションが取り易いため、担い手になるのではないか。 <p><役割分担></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者の方々の協力を得ながら、メッセージカードを配布する。（民生委員、絆のあんしん協力員） ・ 「メッセージカード」の配布をきっかけとして、地域の担い手となる方について、上に挙げた意見を基に発掘していく。その後、他の活動にも繋げられるように進めていく。（包括）
<p>課 題 解 決 の た め に 不 足 し て い る も の</p>	<p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今後介護事業者にも担い手になってもらいたい。地域の介護関連事業者との関係が点と点（1事業所⇔包括）での連携はあるが、地域としての連携が不足している。 <p>■区レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生、中学生の親世代を担い手のターゲットにすることを考えると、教育現場やPTAへの地域包括ケアシステムの意識がまだまだ低く（=ない）、働きかけがされていない。 ・ あんしん協力機関や自治会・町会連合会などいろいろの団体に地域包括ケアシステムの説明・周知が不足しているのではないか。

地域の結びつきを拡く、より強くそしてより深く

～コロナ禍の今でもできること、今だからできること～

地域包括支援センター（西新井本町）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>高齢社会を迎え、さらに自助、互助、共助、公助が包括的に確保される体制づくりを必要としているが、課題も多い。中でもコロナ禍にある今、地域のネットワークを維持・強化しつつ、新たな担い手の発掘・確保に向けた取り組みの必要性が高いと考えたことから。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■出席者 民生委員 10名 協力員 4名 協力機関 3名(サロン団体含む) 絆づくり担当課 2名 基幹包括 1名 ふれあいポリス 2名 包括職員 3名 <u>計 25名</u></p> <p>■検討内容</p> <p>【こども食堂立ち上げ～コロナ禍における活動事例紹介】</p> <p>こども食堂「三つの木」主催者より、活動目的や活動状況、コロナ禍の現況等をお話し頂いた後、主催者と参加者との質疑応答を通じて、地域活動への共通認識を形成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍でサロンを休止していたが、月1回以上電話での状況確認等の活動を行い、関係維持に努め、認知症の方もこれを記憶していた。基幹地域包括支援センターと相談し再開を目指している。 ・ カラオケ中心のサロンは「ささえあいコール」をしながら、現在、会場を野外に移すことや、定員を減らすなどを検討し、活動再開を模索している。 ・ 所属する信用金庫で2件のキャッシュカード被害があった。コロナ禍で、人との交流が減り、電話で優しく対応されると騙されてしまうのではないかと推察する。高齢者等が気軽に相談できる場となれることを目指して活動している。 ・ 社会資源や担い手を増やすことは必要と考える一方で、やはりコロナ終息の目途がつかないと難しいのではないかと。 ・ コロナ禍でも活動を継続していくために工夫が必要である。今日の意見交換を通じて、絆を深め活動を広めるヒントが得られたと思う。やってみて、失敗してもそこから課題が見出し、一緒に対策を考え、前に進んでいくことができる。チャレンジが大切である。 ・ 各主体における高齢化は依然として解決せず。未曾有の事態に、堪える時期を経て、課題解決へと大きく活動する時に備え、力を蓄える時期としたい。 ・ 『高齢者の外出機会が減った』ことについて、地域にどういったものがあれば解決できるか、必要な物的・人的資源を具体的に考え、取り組んでいく必要がある。



	<p>本人の居場所や支援を担う人材の確保になお努力が必要であり、むしろその必要性は益々強くなっているとの認識を共有した。一方で、コロナ禍による活動制限を強いられる状況にあり、対策・対応に苦慮している等の意見があった。</p>
<p>取り組み結果・成果</p>	<p>■成果</p> <p>積極的な地域活動が制約される現状において、「安心して住み続けられる地域」をつくっていくため、今はコロナ禍に適応しながら、活動の継続性と多様性が必要とされていることを共に確認・共有することができた。これまでのネットワークや繋がりを保持しながら、物的・人的資源の創出・確保といったことの拡充に向けて取り組んでいく動機付けの場となり、足掛かりとすることができた。</p> <p>また、共に地域課題について考え、意見を交わすことを通じて、地域関係者・関係機関とのコミュニケーションが向上し、ネットワークはより強くなったものと考えている。</p> <p>■課題解決に向けた取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サロン等高齢者の居場所の再開への取組み（サロン等主催者）、活動支援（一層・二層） ・ コロナ禍に適応した柔軟な活動方法を参考に、工夫・改善に取り組む（各主体） ・ 地域に必要なかつ有用な人的・物的資源のアセスメント（全関係者・機関） ・ 他主体の変化に対応しつつ、ネットワークの拡大に向けた取組みについて継続的に検討する。各地域のアセスメント結果について共有し、その結果に基づき、具体的な解決・改善方法を検討する場を設ける。 <p>■ケア会議後の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各活動の支援・バックアップ。 ・ 感染予防等の安全確保と活動の均衡を保つ。 ・ 地域関係者による物的・人的資源のアセスメント。 ・ 二層協議体を活用して活動報告と情報・意見交換を予定。
<p>課題解決のために不足しているもの</p>	<p>■個別レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ サロン等が安全な環境を整え、活動を再開するために必要な支援。 ・ コロナ感染症流行前の繋がりを維持・継続するための「支えあいコール活動」や「オンラインサロン」等、現状に応じた多様な活動への技術・資源。 <p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者が安心して暮らし続けられる地域であるために、必要と思われる人的・物的資源の具体的な把握。 ・ 若年～中年層に向けた地域活動への参加周知・啓発活動。 ・ 個人レベルで、すでに地域において何らかの活動している方や興味を持っている方など、新たな担い手となり得る人的資源の発掘・確保に係る情報収集と把握。 <p>■ブロック圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 若年～中年層に向けた地域活動への参加周知・啓発活動。 ・ 感染予防の面から安全な開催環境と目的到達を得られる会場の確保。 <p>■区レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染予防対策の実践に向けた各主体への知識・技術・物的支援など。 ・ Zoom等を活用したサロン開催に向けた環境整備や設定へのバックアップ・支援。

桑袋団地懇談会（関係者意見交換会）

地域包括支援センター（はなはた）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
テーマ選定の	<p>花畑8丁目の桑袋団地は高齢化率が高く包括としての関わりが多い地域であり、様々な困りごとを聞いている。具体的には、買い物や医療受診の不便さや、エレベーターのない棟では外出の困難である。</p> <p>一方で、地域活動が盛んで、集会所にて桑袋カフェという集いの場を住民主体で開催されていて、コミュニティもできている。</p> <p>自治会長も新しく代わり、自治会役員や民生委員他、桑袋団地の関係者が集まり意見交換することにより、現状を把握し今後の地域づくりに生かしていく。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■桑袋団地の現状を知る（参加者からの意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな国籍の住民がいる。住民が入れ替わっていることがあり、自治会として実態が把握できない。夜中騒いでしまう等の騒音問題もある。 ・ ごみの分別ができていないことがある。2週間たっても片づけられず、理事（棟の班長）が分別して捨てている。 ・ 犬猫問題。野良ネコ、鳩に餌をあげてしまう。注意してもやめてくれない。 ・ 共有スペースに勝手に駐車してしまい、介護関係の車が停まれなかったりする。注意しても逆に威嚇される。 ・ コロナ禍で現在サロン、認知症カフェは中止。この夏は集会所の開放も行っていない。 ・ 縦階段ごとに班長がいて、棟で班長の代表の棟長がいる。2か月に1回理事会を開いており、意見交換を行っている。理事会便りを回覧板で回している。階段毎に相談して問題解決していることも多い。 ・ 第3日曜日は清掃の日で、基本は住民全員参加。そこで安否確認を行っている。参加しない人は棟によって金額は違うが、罰金0～2000円である。 ・ 自治会費を払わない人もいる。 ・ 駐在の警察官は平成16年から勤務しており、地域をよく知っている。以前に比べ、とても落ち着いた印象である。 ・ 警察官が毎晩夜警をしてくれていて、地域住民はとても心強い。感謝している。 <p>■さらに住みやすい地域にするには</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 注意書きの張り紙は英語、中国語、韓国語で用意できる（JKK）。伝える方法の検討が必要。 ・ 生活に密着した問題が多い。区役所でも生活相談を受け付ける課はあるが、個人対個人の問題だとなかなか解決は難しい。JKKや警察、対象者によっては包括を案内することになる。 ・ 地域のつながり、自治会の活動はしっかりしているので、今後も継続が必要。また毎日の小さな積み重ね（あいさつ等）の継続が求められる。住民人数の調査を自治会独自で行ったが、個人情報のことを言われたりしてすべては把握できない。1300人程度の住人がいることがわかった。緊急連絡先に関してはJKKでも把握している。 ・ それぞれの立場で何ができるのか理解が必要。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">取り組み結果・成果</p>	<p>■会議を通じての成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者からさまざまな地域の情報を発言してもらい、現状の共有をすることができた。 ・ 今回出た意見は、長年問題になっているものであり、解決できる策があるかという点と難しい。ほとんどの住民はルールを守り生活できていてほんの一部の住民がルールを守らない現状がある。今後も根気強く自治会で対応していくことになる。 ・ 今回の情報交換で出た意見を包括が精査し、2~3 か月後に一つのテーマを掘り下げていくことになる。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">課題解決のために不足しているもの</p>	<p>■個別レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民ひとりひとりの生活マナー <p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会として団地内におけるトラブル発生を未然に防ぐため、継続的に注意喚起するチラシの配布や掲示 ・ 住まい方に問題がないか確認のため、巡回管理人の定期訪問（例えば1年おき）の実施 <p>■区レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 外国籍の方の生活支援のための生活相談担当者の設置

第十九回一ツ家包括ケア検討会 住民主体の通いの場支援について

～南花畑地域住民による運動サークル「あゆみ」の事例から～

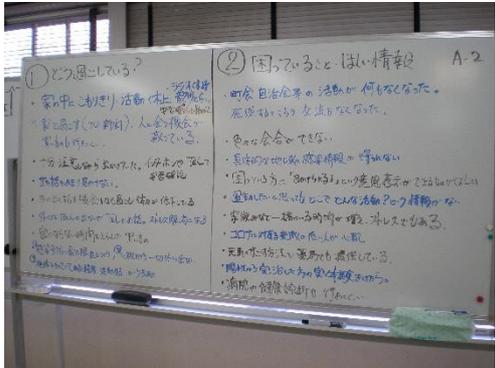
地域包括支援センター（一ツ家）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input type="checkbox"/> 地域課題発見 <input type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
テーマ選定の理由・背景	<p>包括一ツ家では、昨年度に介護予防教室から運動を取り入れた通いの場を立ち上げる取り組みを行った。その成果について分析し、今年度の二層事業に有効活用することを想定していた。しかしコロナ禍が出現したことにより、介護予防と感染リスク管理を両立させていくことへの検討が喫緊の地域課題と考えられた。地域包括ケアシステム構築を前進させるための意見交換を行いたいとの思いでテーマを選定した。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>概要・検討内容：コロナ禍による自粛が高齢者に与える影響について</p> <p>通院せず電話診療をしていた高齢者が数ヶ月ぶりに外来受診し、病状悪化していたケースも多い。デイサービスの通所を控えている間に、室内を歩けた人が寝たきり状態になる等、閉じこもりによるマイナス面は大きいと感じる。自粛生活によるストレスから夫婦間で暴力などの権利侵害が起きてしまったケースや、閉じこもりによる意欲低下でセルフネグレクトの状態に陥ったケースもある。絆のあんしん協力員による訪問活動の再開はできない状態だが、協力員に洗濯物や電灯に注意するなど、対面でない見守りの形をお願いしている。ふれあいサロンの多くが自粛中だが、運動系の団体から再開し始めている。会場を借りて開催しているサロンが多いため、再開を検討する場合は会場のルールに従って考えていただくようお願いしている。100%感染を防ぐことは難しいが、適切な手指衛生とマスクやフェイスシールド等による飛沫防止、汚染確率高い部分の拭き取りなどの防御策を講じていけば、感染者を診療した医療従事者でさえ「濃厚接触者」と見なさない。じつはコロナ感染対策はインフルエンザの感染対策と同じである。予防策をした上で、日常生活や健康の維持に必要な活動を再開させないと、感染症以外の健康に対するリスクが高まる。地域包括ケアシステムの本来の目的に立ち返って、自粛から活動再開に向かうことが大切と思われる。</p> <div data-bbox="231 1422 694 2016"> <p>自宅で行える等潤ぐつとアップ体操！ 呼吸のエクササイズ～吐く息長くは長生きのコツ～ 呼吸の質を高めて健康に過ごしましょう 監修：大島 菜野先生</p> <p>①深呼吸 呼吸は一日約28,800回。呼吸の質が高まるとエクササイズになります。 深呼吸を練習してみましょう。</p> <p>②吐く息長くは長生きのコツ</p> <p>ポイント① 背中をみくらませる</p> <p>ポイント② しぼませるように吐ききる</p> </div> <p>自粛期間の取り組みとして体操 DVD「等潤ぐつとアップ体操」から抜粋した体操を紙面にして、前年度自主グループや予防教室に参加した人に送付した。</p> <div data-bbox="758 1657 1412 2004"> <p>コロナ禍における介護予防の方向性</p> <p>課題①自主サークルの安全性にどこまで関わるか (コロナ以前の課題) ●事故・感染防止：立ち上げ支援の中で包括より情報提供・助言。「自己責任の場」の徹底。 →運営のガイドラインがあるとうい</p> <p>●事故対応：代表住民や会場提供先、講師の責任追求を避ける →事故時の対応マニュアルと保険が必要 →自主サークルの登録制度を提案 ：ガイドラインに沿う登録サークルに対し、行事保険適応される仕組みがあるとうい</p> <p>課題②感染防止と介護予防の両立 ●感染防止に配慮した教室モデルを区・包括が示す ・6/16 パークで筋トレ(区・屋外) ・7/2ボールウォーキング(包括一ツ家・屋外) ・8月～はじめてのフレイル予防教室(区・屋内) ※今年度の足立区介護予防教室 ：自治化支援ではなく基礎体力回復重視に方向転換</p> <p>運動指導 ・スーパーセッション ●少人数の教室・通いの場→自宅で各自運動</p> <p>●屋外での運動教室を増設、重層化(フレイル予防教室～フレイル段階教室等)</p> </div>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">取り組み結果・成果</p>	<p>取り組み結果：第二十一回一ツ家包括ケア検討会の議題で継続検討を実施。～「コロナ禍に負けずに活動再開したい。でも場所がない！」地域活動再開への壁をどう乗り越えるか考える。～</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 住区センターについては、様々な住民団体が有料で使用するのが原則のため、一時的であっても特定の活動や団体のみが利用料減免されることは難しい。 ・ 社会福祉協議会のふれあいサロンに登録すると、住区センター等の利用料は減免される。ただし、すでに多くの既存の団体が会場使用している現状から考えると、定期的に必ず会場使用できるとは限らず、定期開催が条件であるふれあいサロンの良さを生かせない。 ・ 感染対策について「安全のための対策」と「安心のための対策」は異なる。どこまで対策すれば「安心」なのか、人により異なり難しい。「安全のための対策」を取った上での感染について責任をどう考えるか、避けられないものとして受け入れる社会的コンセンサスがないと、活発な活動は難しい。 ・ 多くの福祉施設が地域への場所の提供に消極的にならざるを得ないが、マスク着用、手指消毒、密を避ける、体調不良者が参加しないという感染対策を十分したうえでできる活動を行うことが必要。 <p>成果：常楽診療所待合室を活用した、DVDを使った体操の自主グループ立ち上げ会議を11月18日に開催。12月2日より、毎月第一・三水曜日14:00～15:00に自主グループ活動スタートとなった。前年度の自主グループ活動メンバーとみんな元気アップ教室参加者の活動の場となる。元気アップ教室終了直後のモチベーションが高い時期に企画したことで、呼びかけに応じやすい印象。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">課題解決のために不足しているもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■個別レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 自粛生活から活動的になれるための気持ちづくりをサポート ■包括圏域レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護サービス事業者に代わる活動の場の不足 ■ブロック圏域レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域包括ケアシステムの本来の目的を推進するため、感染対策を施した上で前向きに活動再開に向けた支援を包括として実施 ■区レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民主体のサークルの場合、感染対策にも費用負担が重いため、ハード面の支援。 ・ 責任を問われるのではないかとという担い手側の不安を解決するため、行事保険が適応される運動を取り入れた通いの場の登録制。 ■広域レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 住民主体の活動の場で感染対策をしっかりと行っている場合、仮に感染しても責められることはないはずであるが、担い手や参加者の心理的な負担を軽減させるために、感染防止策含め、「この対策を行っていれば担い手としての責任を果たしている、免責される」と見なされる指針があるとよい。

コロナ時代を地域で明るく元気に生きるには！

地域包括支援センター（日の出）

機能	<input type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input checked="" type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>昨年度、地域の高齢者が参加できる活動の場をまとめマップを作成したが、コロナウイルスの影響で活動が休止となった事もあり、配布する事ができなかった。今年度は活動が休止している中で、高齢者が自宅で過ごすことが多くなり、地域の方々がどのような形で、関わりを保てるかを検討していきたい。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■出席者 24名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問介護事業者(1事業所)・居宅介護支援事業所(1事業所)・通所介護事業所(1事業所)・区役所(絆づくり担当課・地域包括ケア推進課)・基幹包括支援センター <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>■外出自粛の中、どのように過ごしているか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅で過ごす時間が長くなり、テレビや新聞を読むなどして過ごしている。 ・ 外出は散歩する程度。友人や親類と会う機会が減り、人との距離が遠くなった。 ・ 運動不足になりストレスが多い。外に出ないことで体力低下する人がたくさんいる印象。 ・ 参加していた活動が全て自粛になり、何もできなくなってしまった人が多い。 ・ 感染予防に気を付けた上で趣味活動や外出を行っている人もいる。 ・ 安否確認のため、散歩のついでやインターホン、電話を活用し安否確認を行っている。 ・ 家族が皆家で過ごす時間が多くなったことで、かえって家族の負担やストレスが増えている。 ・ 介護を受けている人は変わらずサービスが受けられるが、一般の人の活動の場がなくなってしまった。 <p>■困っていること、欲しかった情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的で身近な、実際の生活に直結する感染情報 ・ カフェや運動の場など、開催している活動の情報 <p>■検討内容</p> <p>自粛の中、自宅で過ごすことが多くなり、当たり前のことができなくなってきて、明るい話題が少なくなっている。感染を予防しながらも体力や気力の低下を防ぎ明るく元気な生活を送れるよう、楽しめる情報をまとめ情報発信しながら、地域の繋がりを維持できるようにしていきたい。</p>

<p>取 り 組 み 結 果 ・ 成 果</p>	<p>■取り組み結果</p> <p>9月の敬老の日に合わせて、自治会がお祝いで戸別訪問を行う予定。その時に提供できるような情報をまとめ、各自治会と一緒に配布する事を、今回の会議で確約する。8月中に情報をまとめ、協力員へ依頼をする。また活動が休止しているサロン等があるため、このような情報提供の内容にも参加していただきながら一緒に作成し、定期的に配布できる事を目標とする。配布物を定期的に配ることで、地域の関係者との繋がりを保ち、地域でのネットワークを構築していく。</p> <p>■会議の成果</p> <p>今回の会議で地域の高齢者がどのような生活を過ごしており、どのような事に困り、どのような情報を必要としているかを意見交換する事で、新たな課題を共有できたと思われる。事前に参加者に聞き取りを依頼していた事もあり、会議では多様な意見を伺うことができた。様々な活動が休止している中でも、地域の方々と繋がりを保つ事を目標として、地域の住民と意見交換をしていく事ができた。</p> <p>今年度は地域住民に提供できる情報をまとめた広報誌を配布していきたい。ただし包括が全て起案し作成したものだとして、地域住民への一方的な情報提供になってしまう。昨年マップ作成時のように、地域の方が関わる事が大事だと思われるため、作成時から今回の会議に参加した方も巻き込みながら、広報誌を作成していきたい。</p>
<p>課 題 解 決 の た め に 不 足 し て い る も の</p>	<p>■個別レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に引き籠ってしまっており、なかなか地域との接点が見いだせない高齢者が、さらに調子を崩してしまっている可能性があるため、更なるネットワークのツール <p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 包括とネットワークを形成されている自治会やあんしん協力機関、民生委員、あんしん協力員に限られており、地域全体までは把握できていないため、圏域内での幅広いネットワーク <p>■区レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護保険や絆の対象者だけでなく、元気な高齢者が見守られるような仕組。

コロナ禍における地域課題について

地域包括支援センター（保木間）

機能	<p>■個別課題解決 ■地域・ネットワーク構築 ■地域課題発見 ■地域づくり・資源開発 □政策形成</p>
理由・背景の テーマ選定の	<p>コロナ禍において地域住民、特に高齢者が不安を抱えて生活している。外出自粛による、身体的な弊害や地域のコミュニティ不足、コロナうつなどもあり現在抱えている課題について抽出し解決への方向性を見出す。</p>
ケア会議の概要、 検討内容	<p>■ケア会議の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 絆のあんしん連絡会で実施 ・ 参加者：地域包括ケア推進課・絆づくり担当課・基幹包括支援センター 絆の専門協力員・絆のあんしん連絡員・絆のあんしん協力機関 やすらぎ支援員 計33名 <p>■出席者からの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ感染に対する不安があるが、地域の情報が伝わりにくいので包括が正しい情報を伝えてほしい。高齢者は特に情報が入手しにくい。 ・ 情報の共有化は必要であるが個人情報保護との兼ね合いが難しい。実際感染者に対するパッシングなど人権問題にかかわることもあり冷静な対応が必要とされている。 ・ 地域の居場所の閉鎖や外出自粛による引きこもりなどによって、うつなどの弊害が出ている。同様に足腰の筋力低下となり転倒などのリスクが高くなっている。 ・ マスクを着用していないと不安であるが熱中症になりやすいとも言われており、何に気を付けていけばよいのか今何をすべきなのかわからない。 ・ 様々な情報があるが情報量が多すぎて今、何をすべきかがわからない。 <p>情報の問題、個人情報、人権に関する問題、生活における問題が挙げられた。</p> <p>■必要と思われる対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染予防で外出を自粛する方が増えており、心身機能の低下に伴い様々な生活障害を引き起こしている。地域の見守り体制を強化し、気になる方に対し地域包括支援センターなどの公的機関が関わり、必要な社会資源に繋げていく。 ・ 引きこもりがちの方、支援を必要とされる方の早期発見に町会・自治会が関わっているが全体を把握することは難しい。互助・共助の地域づくりが必要である。 ・ 絆のあんしん関係者に加え、二層協議体にかかわるメンバーで支援に必要とされるネットワークづくりを行い地域住民に対し、細やかな対応ができる様にしていく。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">取り組み結果・成果</p>	<p>■検討の結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍における様々な地域課題について抽出する事ができたが、具体的な解決策の深掘りまで至らなかった。地域課題を分類化し、その中で地域が独自で解決できる課題について絞り込み次回の検討に望んでいく。そのためには現在構築されているネットワークについての情報を参加者にお伝えすることも必要である。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">課題解決のために不足しているもの</p>	<p>■個別レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNSやインターネット等からの情報は高齢者の方は得られにくい。 正確な感染予防に関する対応策やリアルタイム地域情報等の情報を取得する方法。 <p>■ 包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での外出控えでの引きこもりや身体能力の低下にならないように利用できる活動の場。 <p>■北部ブロックでの意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SNS等の利用難しい方向けに回覧板等アナログでの情報提供等の方法を検討。 ・ 感染者に対するバッシングなど人権問題への対応。

迷子になったり同じものを何度も買ったりする認知症高齢者の支援について

地域包括支援センター（本木関原）

機能	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input type="checkbox"/> 地域課題発見 <input type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景 テーマ選定の	<p>今年の9月・10月と認知症高齢者が迷子になって保護される事例が続いた。独居の方と娘が同居している方で、自ら駆け込んだり地域住民に連れてきてもらったりで交番で保護された。いずれもここ2ヶ月で数回保護が続いた。独居の方については施設入居へ繋げたが、娘同居の方は、在宅を継続していく。</p> <p>娘同居の方について娘は就労している。本人は日中自由に出掛けている。ADLは自立しており、買物などもできている。ただ、同じものを何度も買ったり、本人の普段の行動範囲から外れると迷子になったりしている。本人は「このままずっと自宅で暮らしていきたい」と希望している。本人の強みと地域の力を活かしたら、本人の希望に添うことができると考えた。その方策を地域の方々と検討するため、地域ケア会議を開催した。</p>
ケア会議の概要、検討内容	<p>■会議参加者 10名 あんしん協力員(サロン世話人)、あんしん協力機関(個人商店)、町会長・民生委員、主任介護支援専門員、警察署(ふれあいポリス)、区民事務所(所長、地区担当係長)、包括職員</p> <p>■ケース概要 持家に次女と二人暮らし。本人は90才で軽度の認知症であるが、ADLは自立されている。次女は就労のため、本人は日中独居となる。今年3月に区役所から包括へ、本人が保険証の再発行で何度も来庁していると連絡あり。娘達に連絡すると、同じものを買ってきたりカギを失くしたりして困っているとのこと。受診と介護保険申請を行い、要介護1の認定が出るが、拒否があってサービスに繋がらず。店先でおしゃべりをしたり商店街を買い物で行き来したりする本人の姿が見受けられた。10月に入り、自宅から少し離れた場所で迷子になり、パトカーや警官に送ってもらうことが続いた。家族に連絡がつかず包括へ連絡もあった。</p> <p>■課題や強みの共有</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 一日に何度も買い物に出掛けてしまう。⇒お店以外行くとことがあれば…。 ② いつも行く範囲から外れると迷う。⇒地域の方々の見守り声かけや理解があれば…。 ③ 90才で支えもなしに歩くことができる。店主や客とおしゃべりを楽しめる等々。 <p>■参加者との関わりや意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一日に何度も買い物にきたり、同じ物を何度も買ったりするので、買ってもらうのを止めた。(本人が認知症と)一見、分からない。(協力機関) ○ 商店街で見かける。何度もカギを作りに来たり、一緒にカギを探したりしたこともあった。見かければ声をかけている。(民生委員・町会長) ○ (本人ではないが)自宅に帰れない方がいて、自宅や交番まで送り届けたことがあった。(本人については)散歩などに誘って関係を作ってからサロンに誘いたい。(協力員) ○ 自宅に帰れない方、なぜ来所したか分からなくなる方が月に1、2名いて福祉事務所や包括へ連絡したりする。(区民事務所) ○ 何度も迷子になる方がいれば(署内で)共有している。身元不明者は写真撮影で対応。パトカーで送ることはよくあること。(ふれあいポリス)

<p>ケア会議の概要、検討内容</p>	<p>○ 本人は話好きのようなので時間をかけて関係作りをしてはどうか。介護保険は多様なサービスがあるので、本人に合わせた場を検討できれば良い。(主任介護支援専門員)</p> <p>■会議の結論</p> <p>○ お店以外の居場所があれば、買物に何度も出掛けることはないのではないかと。 ⇒まずはカフェに来ていただく。誰が誘い出すのか。⇒今回参加の協力員が行ってくれる。</p> <p>○ デイに拒否ある本人との関係構築が必要。⇒本人とあんしん協力員のマッチング、協力員との関係構築に散歩への誘い出し、関係の深まりとともにカフェやサロンへ誘い出す。</p> <p>○ 地域の方々の見守りや声かけをお願いするにしても認知症の方に対する理解が必要ではないか。⇒町会や商店街、朝市等での認知症サポーター養成講座の開催で、地域の方々へ認知症を理解していただく。 ⇒町会長や協力機関から町会長会議や商店会で開催実施の声かけをしてもらう。</p> <p>○ 本人の特徴はかつらをかぶってエプロンしてサンダルで出かける。商店街やプチテラス周辺にすることが多い。こうしたことを地域の方々に知って頂き、今後の対応に繋げていく。 (⇒同居の娘には了承済み)</p>
<p>取り組み結果・成果</p>	<p>■地域課題の発見</p> <p>○ 意見交換の場で、本人以外の認知症が疑われる高齢者のエピソードが出てきている。それらの方々を地域で支えていくためにも、より目の細かい見守りや声かけのネットワークが必要と思われる。</p> <p>■ネットワークの構築・強化</p> <p>○ 店の都合でなかなかあんしん連絡会に参加できなかった協力機関が参加できたことで、その協力機関とその他の関係機関との顔の見える関係ができた。また参加者同士は古くから住んでいる方で、お互いに知っているが、改めて顔合わせできたことで、協力関係に発展できる。</p> <p>■ケア会議後本人とあんしん協力員の顔合わせ実施。その後、協力員単独訪問継続中。</p>
<p>課題解決のために不足しているもの</p>	<p>■個別レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本人の近所に協力員・協力機関が少ない⇒協力員・協力機関の登録増を図る。 ・ 本人が立ち寄る商店・スーパー・コンビニとの関係性・協力体制 <p>■包括圏域レベル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 在宅できているがちょっとしたことで徘徊したり迷子になったりするようなレベルの認知症高齢者の把握。 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">   </div>

地域の活力を維持するために今できること

地域包括支援センター（六月）

機能	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題解決 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・ネットワーク構築 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題発見 <input type="checkbox"/> 地域づくり・資源開発 <input type="checkbox"/> 政策形成
理由・背景の テーマ選定の	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の活動実施状況の現状確認 ・ 高齢者の活動状況や活動意欲の変化 ・ 孤立化を防止するための方法の検討
ケア会議の概要、 検討内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基幹包括： いままで 150 か所の交流の場が登録されているが、現在 1 割が再開となるも、7 月末に自粛のお願いをした為やり方について悩んでいる状況。 ・ 住区センター： 7 月から教室再開されている。（カラオケ、吹矢、料理以外）以前は麻雀が密を避けるため 15 時からは学童のみの使用となっている為一般の方の利用ができない状況。3 月に今年度の教室募集をしているが、コロナのため延期となっておりやっと再開となるも追加募集は行ってないため申し込みされても受けることができない状況となっている。 ・ 自治会長： 現在この団地の入居者は現在 175 人中 105 人が 70 歳以上となっている。すべてにおいて消極的となっており、ラジオ体操の呼びかけを行っても出てくる人はいない。今までは各階に班長がおり住人に異変があれば最終的には自治会長に連絡が入り、J K K に連絡するという流れができていた。以前は安否確認、本人の状態確認も含め毎月、自治会費の集金のため班長が訪問していたが、感染防止により、本人の了承を得られれば 6 か月、12 か月でお願いしている状況である。 ・ ケアマネジャー： 介護予防の研修を受け、担当の要支援認定を受けている利用者の方にコロナ禍自宅でする運動の提案をし、P T に評価をしてもらうことを行ったが、ほとんどの方がレベルアップしており、ご本人自身も運動の必要性を感じて頂けたという結果となった。しかし利用者の中にはデイサービス等の利用を控える方も多くおり、その中には、レベルを落とす方が多かったことも報告された。 ・ 地域包括ケア推進課： 高齢者の方で食事の状態が乱れ、低栄養となる方が増えている。料理をすることがなくコンビニエンスストアで総菜、弁当で済ませている方も増えている。足立区区としても現在栄養士と対応策を考えている最中である。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">取り組み結果・成果</p>	<p>【今後の取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会交流・リハビリの必要性を理解してもらえよう周知活動を行う。 ・ 感染予防の正しい理解をしてもらい不安解消に繋げる。 ・ 参加できる交流の場等の情報提供を行う。 ・ 生活全般に必要な情報を提案して行ける環境作り。 <p>それぞれの方が感じておられる現状の問題点や、不安、取り組み等の情報共有ができた。 また、今後感染予防に配慮した居場所づくりの必要性についても再確認することができた。 自治会、住区センターと今後協力、連携してゆく方法を考えていく。</p> <p>【成果】</p> <p>自治会、住区センター、PT、包括が連携して体操教室を開催。今後どのように繋げてゆくか再度検討していくこととなった。(月1回)</p> <p>【その後】</p> <p>令和2年11月より月1回、住区センターと包括共催という形でPTが講師となり、介護予防教室を開催。今後栄養士、コンビニ等との協力により栄養教室も企画している。 コロナ禍自粛の期間が長くなり、高齢者が自宅での閉じこもり状態が続き、社会交流等が減ってしまい孤立化している。その反動か体操教室への参加希望がある。現在の開催場所ではすでに満員となっており今後別の教室の開催を検討していく必要がある。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">課題解決のために不足しているもの</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■個別レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい感染予防をしてもらうための知識の習得 ■包括圏域レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会：見守りが必要な方、支援が必要な方の把握 ■ブロック圏域レベル <ul style="list-style-type: none"> ・ 体操教室等開催にあたり場所の確保、人材の確保

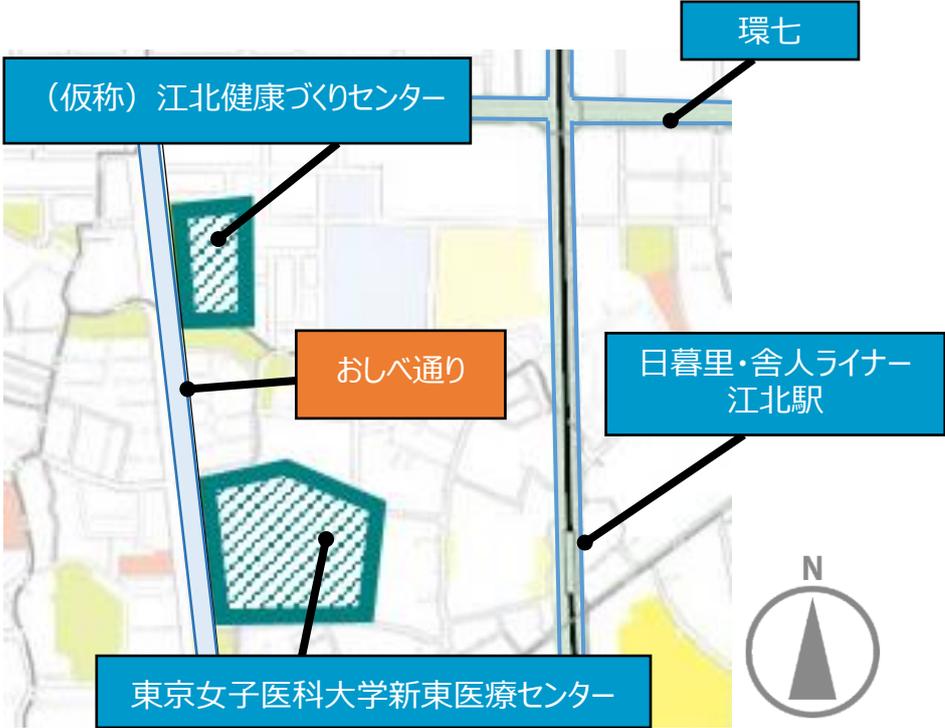
地域ケア会議で提起された高齢者に関する地域課題と対策

令和3年2月10日
地域包括ケアシステム推進会議資料

大分類	課題	必要な支援	会議で提案された具体的な取組	関連する地域包括ケアシステム構築の柱	
コロナ禍での課題への対応	コロナ禍により高齢者の地域活動、介護予防活動が減少	コロナ禍により高齢者の地域活動・介護予防活動を維持、促進するための支援	感染予防に関する知識の普及・啓発	<input type="checkbox"/> 健康の維持 <input type="checkbox"/> 地域とのつながりの維持 <input type="checkbox"/> 孤立の防止 <input type="checkbox"/> 異変への気づき <input type="checkbox"/> 安心の向上や楽しみの持続	
			コロナ禍でも実施可能されている地域活動の周知（情報提供）		
			イベントや地域活動に利用可能な屋外施設の開発及び周知		
			消毒薬やマスクなど感染予防物品の配布		
			感染時に適用される行事保険利用に関する費用助成		
高齢者の生活支援を担う介護関係職員（ヘルパー等）の精神的負担の増大	介護関係職員の精神的負担を緩和するための支援	感染予防に関する各事業所の標準ルール（ガイドラインなど）の策定、負担を軽減するための事業所間の連携強化、介護関係職員のメンタルケア	<input type="checkbox"/> 専門機関とのつながり <input type="checkbox"/> 在宅生活を支える支援 <input type="checkbox"/> 医療と介護の連携の推進		
高齢者の孤立ケースの増加	高齢者の見守りネットワークの強化	高年齢者の見守りネットワークの強化	絆のあんしん協力員と協力機関の増 現に孤立化はしていないが、孤立が懸念される高齢者の発見と見守りのための地域ネットワーク構築	<input type="checkbox"/> 孤立の防止 <input type="checkbox"/> 地域とのつながりの維持 <input type="checkbox"/> 異変への気づき <input type="checkbox"/> 専門機関とのつながり	
			通報先としての地域包括支援センターの周知		孤立が懸念されるケースに関する通報先・相談先であることの周知
			高齢者同士のオンラインネットワーク利用の推進		スマホ教室等による高齢者向けのインターネットリテラシーの向上
			高齢者のオンライン環境整備に向けた支援制度		
人材	高齢者の見守り、支援をする地域の担い手不足の進行	高齢者の生活課題を地域全体で解決するための意識の醸成	あんしん協力機関や町会、自治会等に向けての意識啓発	<input type="checkbox"/> 孤立の防止 <input type="checkbox"/> 地域での活躍 <input type="checkbox"/> 若いへの備え <input type="checkbox"/> 人材の確保・育成	
		多様な分野からの人材確保	高齢者関係だけでなく、PTAや子ども食堂などの他分野に関わる人たちの勧誘		
生活環境	移動に支障のある高齢者の増加	高齢者の移動支援制度の実施	交通利便性が低い地域へのバス交通網の整備	<input type="checkbox"/> 在宅生活を支える支援 <input type="checkbox"/> 安心の向上や楽しみの持続	
		行政に係る手続きの簡易・効率化、オンライン化	高齢者が何度も行政施設に行く必要がないように手続きの簡易・効率化、オンライン化の推進		

地域包括ケアシステム推進会議 報告資料

令和3年2月10日

件名	(仮称) 江北健康づくりセンターの整備計画について
内容	<p>旧江北桜中学校跡地を活用した(仮称)江北健康づくりセンターの整備について、以下のとおり報告する。</p> <p>1 新施設コンセプト</p> <p>(1) 基本コンセプト 「もしも」に備えた医療・介護・健康の拠点</p> <p>(2) 設計コンセプト</p> <p>ア 日常の「健康」を支えつつ、非日常の「もしも」に備える拠点づくり</p> <p>イ ひとりでもみんなでも心地よい居場所づくり</p> <p>ウ 小規模な講座から大規模なイベントまで多様な使い方ができる空間づくり</p> <p>2 新施設の特徴</p> <p>(1) 感染症に備える。</p> <p>(2) 災害に備える。</p> <p>(3) 健康寿命を支える。</p> <p>(4) 高齢者の生活を支える。</p> <p>※ 詳細は別添資料「(仮称)江北健康づくりセンター基本計画」を参照</p> <p>(仮称)江北健康づくりセンター周辺位置図</p> 

想定床面積

名称	想定床面積	参考:竹の塚	参考:江北
江北保健センター	約 2,000 m ²	2,476 m ²	1,495 m ²
休日応急診療所	約 300 m ²	125 m ²	68 m ²
(仮称)医療介護連携センター	約 1,900 m ²	今回新設	
子育てサロン	約 130 m ²	60 m ² (上沼田保育園)	

3 スケジュール (予定)

令和2年7月に基本設計が終了したが、台風による水害対策、新型コロナウイルス感染症対策として、基本設計期間を延長して設計内容を見直し施設機能をより充実させたため、約1年程度スケジュールを延長し、令和5年度中の開設を目指していた。

しかし、今般のコロナ禍によりこの先の財政状況が不透明なため、令和3年度の工事発注を見送ることになった。

4 医療・介護連携センター (案)

- ・ 基幹地域包括支援センターや区の高齢者支援関係部署を配置することにより、施策や事業の拠点として対応力を強化する。
- ・ 研修等を通して医療・介護従事者、地域包括支援センター職員のスキルアップに取り組む。

(1) 3階事務スペースに入る想定部署

- ア 連携相談窓口 (現:区ケア課 在宅療養支援窓口)
- イ 高齢虐待対応 (現:区高齢福祉課 高齢援護係)
- ウ 基幹地域包括支援センター (現:社会福祉協議会 (区から委託))
- エ 権利擁護関係所管 (現:社会福祉協議会権利擁護センター)
- オ 地域包括支援センター・江北

(2) 研修機能

- ア 大研修室 (300名収容/可動パーテーションで3分割可能)
- イ 研修内容等
 - ・ 医療関係者・介護関係者等連携強化のための研修・連絡会
 - ・ 包括支援センター職員向け研修・連絡会
 - ・ 介護従事者向け研修・連絡会
 - ・ 医療関係・介護関係団体が開催する研修・連絡会
 - ・ 区民向けの介護・認知症予防講座・講演会

～新型コロナウイルス感染拡大から学ぶ～

感染症に備える

医療機関との連携強化で 区民の安心をつなぐ

- 足立区医師会休日応急診療所、区内2次救急医療機関と連携し、感染症の流行など**非常時にも対応できる休日応急診療所**を設置する。
- 麻疹やインフルエンザ等感染症が疑われる患者が適切な医療機関で受診できる体制を構築する。

足立区の新たな感染症対策の考え方



■休日応急診療所

- 一般患者と感染症が疑われる患者の診察室や動線を**明確にゾーニング**
- 感染症診療室は、室内の空気が外部に流出しないように気圧を低くする**陰圧管理**や、ウイルスの拡散を防止する空気清浄機（**クリーンパーテーション**）を導入し、診療所内の**感染症対策を強化**

ポイント① 感染症

■施設全体

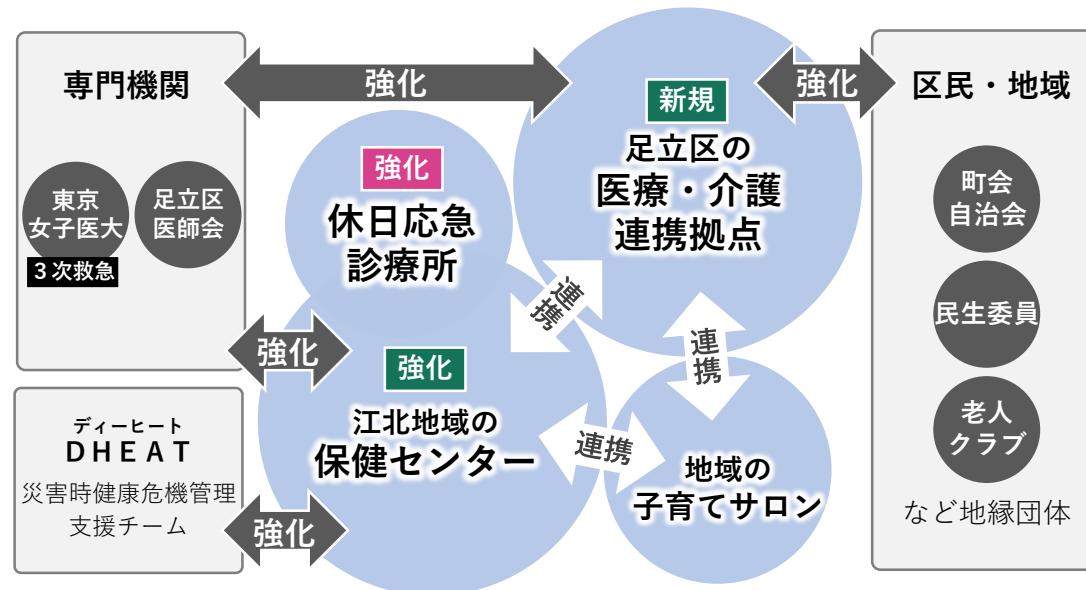
- 自然換気と機械換気**を併用した室内環境
- ICT活用**した事前予約などにより、利用者の利便性に配慮しつつ、混雑を回避（**3密対策**）

日常から高度医療機関と連携

- 保護者の自主グループ活動に専門医を招くなど、**低出生体重児の生活や医療のアドバイス**を行う
- 東京女子医大と連携し、**がん患者等の支援**を行う
- 医療的ケア児**を支援する取組みを検討中

「もしも」に備えた 医療・介護・健康の拠点

～ 感染症、災害、健康寿命、高齢者の生活 ～



保健センター、医療・介護連携拠点、休日応急診療所、子育てサロン等が、「健康」をキーワードに連携し、区民や地域団体が集う「まちの居場所」をつくる。

設計コンセプト

- 1 日常の「健康」を支えつつ、非日常の「もしも」に備える 拠点づくり
- 2 ひとりでもみんなでも 心地よい居場所づくり
- 3 小規模な講座から大規模なイベントまで 多様な使い方ができる空間づくり

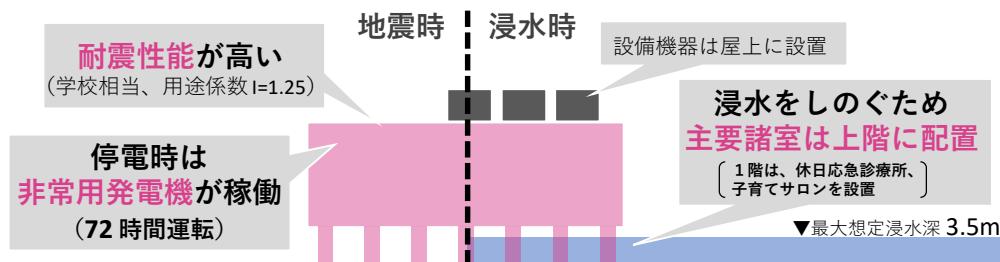
～台風19号（令和元年東日本台風）から学ぶ～

災害に備える

地震に耐え、浸水をしのぎ、区民の命を守る

- 乳幼児・妊産婦など**配慮が必要な区民が緊急避難できる施設**として活用する
- ディーヒート DHEAT**（災害時健康危機管理支援チーム）の活動拠点として発災時から機能する施設とする。

ポイント② 災害

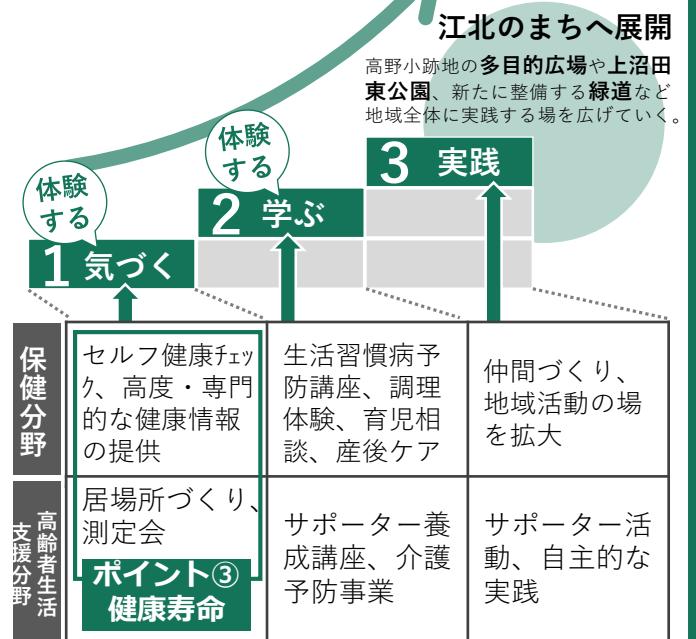


※ 今後、地域防災計画との整合性を危機管理部と調整

健康寿命を支える

3ステップで健康寿命の延伸に貢献する

「気づく」「学ぶ」「実践」の3ステップで、**区民の健康意識を高めるとともに、周囲の人や地域の健康を支える担い手を育てる。**



高齢者の生活を支える

切れ目のない支援で、高齢者の安心を高める

- 基幹地域包括支援センターや区の高齢者支援関係部署を配置し、**施策や事業の拠点として対応力を強化**する。
- 研修等を通して医療・介護従事者、地域包括支援センター職員のスキルアップに取り組む。

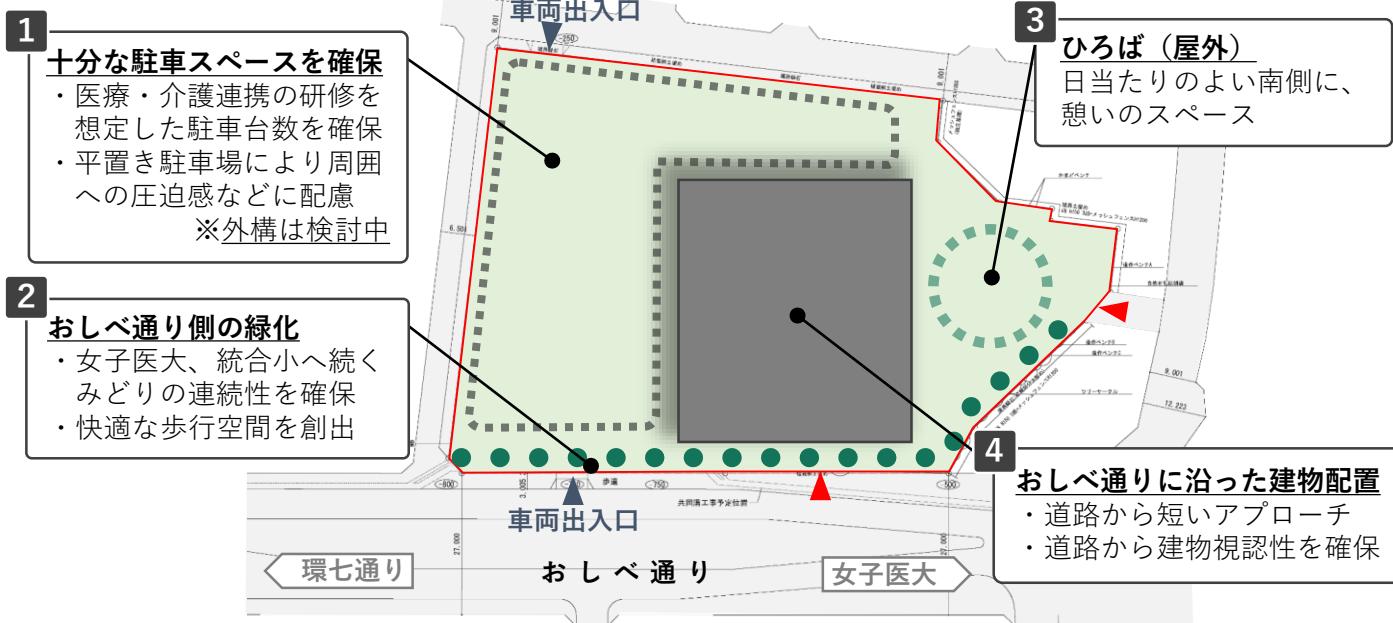
ポイント④ 高齢者



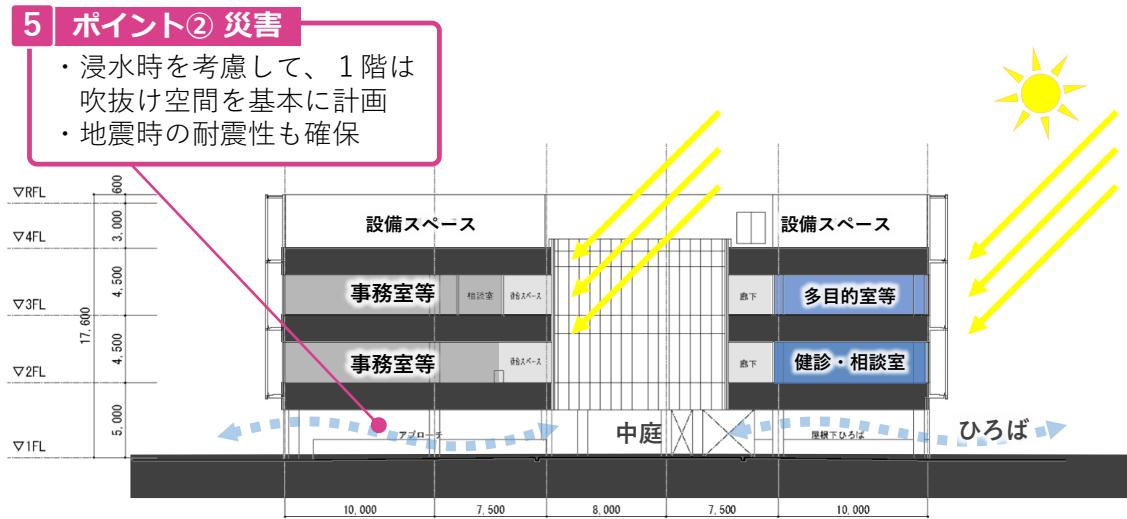
建築計画の概要

主な機能（階構成）

- 1階** 休日応急診療所、子育てサロン、多目的広場
- 2階** 江北保健センター
- 3階** 医療介護連携拠点
- 屋上** 倉庫、設備スペース



建物配置イメージ



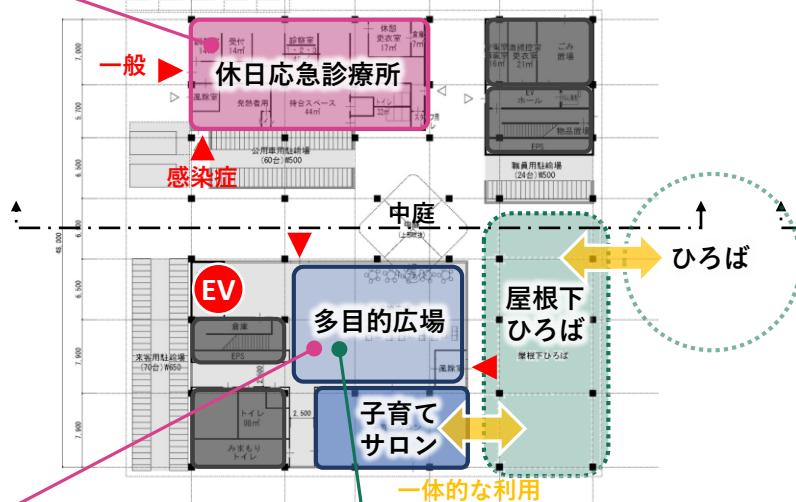
断面イメージ

1階 休日応急診療所、子育てサロン

2階 江北保健センター

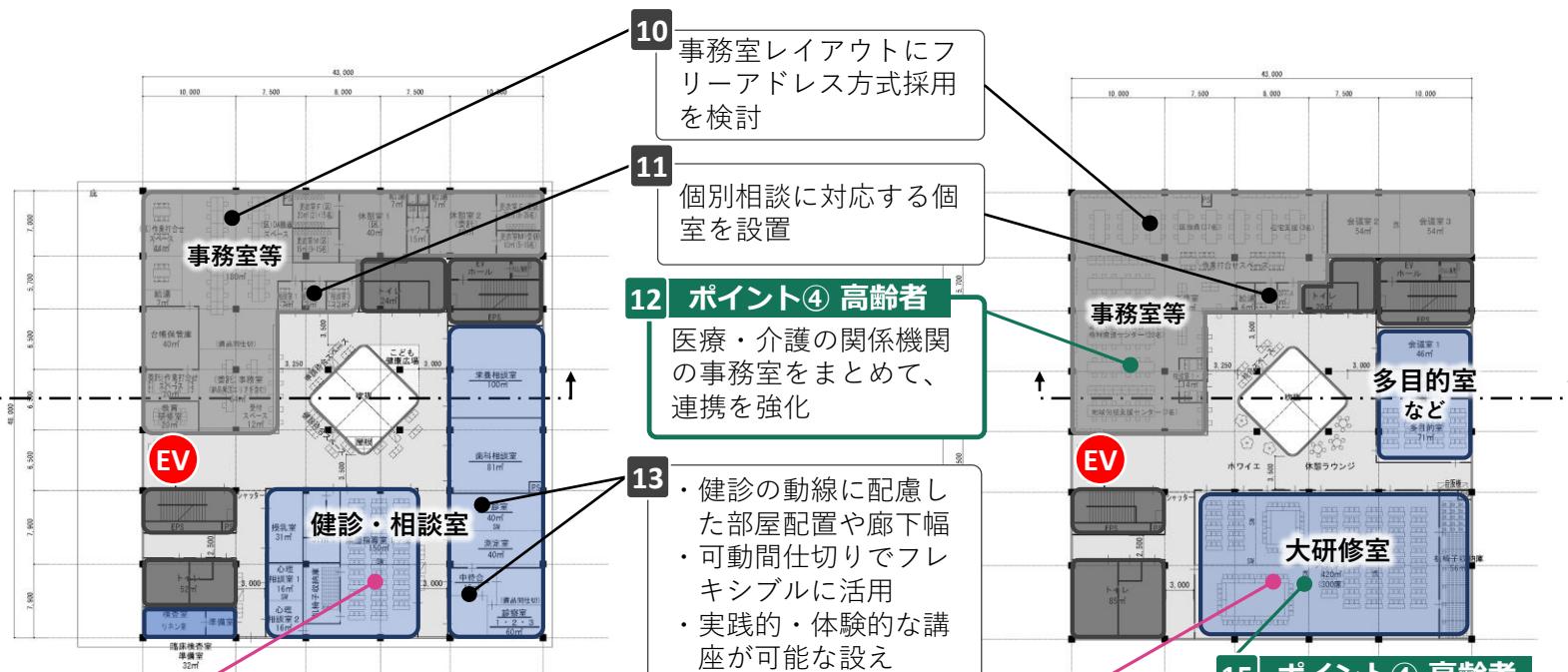
3階 医療・介護連携拠点

- 6** ポイント① 感染症
・一般患者と感染症が疑われる患者の診察室や動線をわける
・感染症診療室は陰圧管理、クリーンパーテーションを導入し、非常時の対応を強化する



- 7** ポイント② 災害
非常時に、全国から届く救援物資置き場

- 8** ポイント③ 健康寿命
・いつでも健康チェックで、自分の身体の様子に気づける場所
・幅広い世代の居場所づくり



- 9** ポイント② 災害
非常時は、DHEATの拠点として、会議や作業スペースに活用

- 10** 事務室レイアウトにフリーアドレス方式採用を検討
- 11** 個別相談に対応する個室を設置
- 12** ポイント④ 高齢者
医療・介護の関係機関の事務室をまとめて、連携を強化
- 13** 健診の動線に配慮した部屋配置や廊下幅
・可動間仕切りでフレキシブルに活用
・実践的・体験的な講座が可能な設え

- 14** ポイント② 災害
非常時は、乳幼児・妊産婦など配慮が必要な区民が緊急避難できるスペースとして活用

- 15** ポイント④ 高齢者
・300席程度の大研修室は、医療・介護に係る多職種の研修等が可能
・可動間仕切りで小空間に区分可能
・空いている時間は区民利用を想定